

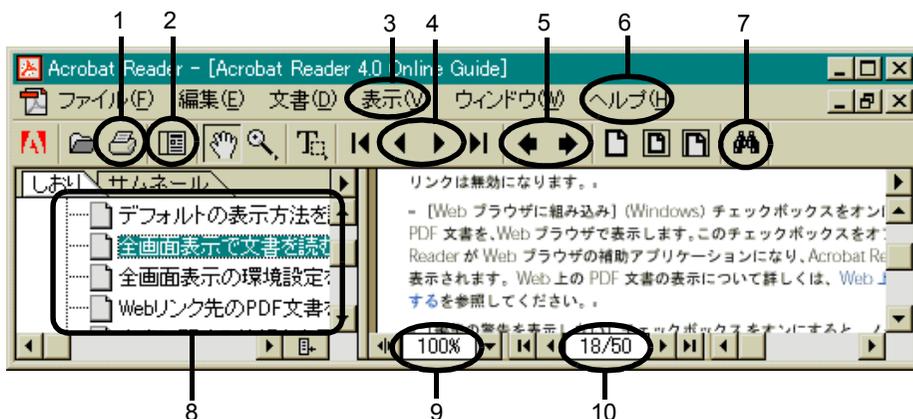
本書について

本書では、周辺機器の増設や、BIOS セットアップの操作方法など、ハードウェアに関する技術的な情報を説明しています。作業を行う場合は、本書の必要なページを印刷してご覧いただくことをお勧めします。プリンタの接続については、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。なお、本パソコンでプリンタをお使いになるうえでの注意事項がありますので、「プリンタを接続する」(▶▶P.66) もあわせてご覧ください。

本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)

ここでは、基本的なボタンの機能について説明します。

Acrobat Reader の使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。



- 1 文書を印刷します。プリンタ名、印刷範囲、印刷部数などを指定し、「OK」をクリックします。ページ範囲を指定するときには、ウィンドウの最下行に「1/5」などと表示されているページ数を指定してください。マニュアルのページ表記と違う場合がありますので、ご注意ください。
- 2 しおり／サムネールを表示または非表示にします。
- 3 文書の表示倍率などを設定します。
- 4 ◀ で前のページに戻ります。
▶ で次のページに進みます。
- 5 ◀◀ で今まで表示した画面を逆戻りします。
▶▶ でいったん逆戻りした画面を、一画面ずつ進めます。
- 6 Acrobat Reader のヘルプを表示します。「ヘルプ」メニュー→「Reader Guide」の順にクリックします。
- 7 キーワードを入力して文書内を検索できます。現在表示されているページから検索が始まります。
- 8 しおりの中から見たいタイトルをクリックすると、そのページを表示できます。
- 9 拡大または縮小率を選択できます。
- 10 全ページ数と表示しているページ数を表示します。

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本書では、いろいろな絵表示を使用しています。これは装置を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。

コマンド入力（キー入力）について

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例およびイラストについて

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows または Windows2000
VirusScan for Windows 2000	VirusScan
Intel® SpeedStep™ technology Applet v1.1	Intel SpeedStep
WinDVD™ 2000	WinDVD
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader
FMV-BIBLO NE4/600N, NE4/50N, NE4/50R	本パソコン
FMV-BIBLO NE4/600N	NE4/600N
FMV-BIBLO NE4/50N	NE4/50N
FMV-BIBLO NE4/50R	NE4/50R

Microsoft、Windows、MS、MS-DOSは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の登録商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

内蔵モデムの取扱説明書について

本パソコンの内蔵モデムについては、次の取扱説明書に詳しい説明が記載されています。本書とあわせてご覧ください。

- [▶「内蔵モデム取扱説明書」](#)

目次

本書について	1
本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)	1
本書の表記について	2
内蔵モデムの取扱説明書について	4

第 1 章 はじめに

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体右側面	12
パソコン本体左側面	14
パソコン本体背面	15
パソコン本体下面	17
2 ワンタッチボタン / i-Panel について	18
3 フラットポイントについて	22
フラットポイント	22
4 キーボードについて	25
主なキーの名称とはたらき	25
テンキーモードについて	27
5 スタンバイ / 休止状態について	28
スタンバイと休止状態	28
スタンバイする	29
休止状態にする	33
6 バッテリーについて	36
充電する	36
バッテリーで使う	37
残量を確認する	38
LOW バッテリー状態	39
バッテリーの注意	40
内蔵バッテリーパックを交換する	41
7 液晶ディスプレイの明るさを変更する	43
明るさを設定する	43
設定した明るさを変更する	43
8 画面の解像度と発色数について	44
表示できる解像度と発色数	44
解像度や発色数を変更する	45

第2章 ハードウェアについて

1 周辺機器を取り付ける前に	48
使用できる周辺機器	48
周辺機器について	49
2 PC カードを使う	50
PC カードを使うときの注意	50
必要なものを用意する	50
PC カードをセットする	51
PC カードを取り出す	52
3 メモリを増やす	54
必要なものを用意する	54
メモリを交換する	55
4 携帯電話や PHS を接続する	59
携帯電話／PHS で通信をするときの注意	59
USB コネクタに接続する	60
携帯電話や PHS 用のモデムを選択する	62
5 マウス／テンキーボードを使う	63
マウスの接続	63
USB マウスの接続	64
テンキーボードの接続	65
6 プリンタを接続する	66
必要なものを用意する	66
プリンタを接続する	67
プリンタを使うときの注意	68
7 外部ディスプレイ／家庭用テレビを接続する	69
必要なものを用意する	69
外部ディスプレイを接続する	70
家庭用テレビを接続する	72
ディスプレイの表示を切り替える	73
外部ディスプレイ／家庭用テレビの解像度と発色数について	76
8 デジタルビデオカメラを使う	82
必要なものを用意する	82
デジタルビデオカメラを接続する	83

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	86
2 BIOS セットアップの操作のしかた	87
BIOS セットアップを起動する	87
設定を変更する	88
各キーの役割	89
変更内容を取り消す	90
BIOS セットアップを終了する	91
3 ご購入時の設定に戻す	92
4 メニュー詳細	94
メインメニュー	94
詳細メニュー	95
セキュリティメニュー	98
省電力メニュー	100
起動メニュー	102
情報メニュー	103
終了メニュー	103
5 BIOS のパスワード機能を使う	104
パスワードの種類	104
パスワードを設定する	104
パスワードを変更する／削除する	106
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	107
メッセージが表示されたときは	107
メッセージ一覧	108

第4章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	114
パソコン本体のお手入れ	114
フロッピーディスクドライブのお手入れ	114
廃棄について	115
2 省電力の設定	116
ご購入時の節電の設定	116
「電源オプション」で設定を変更する	116
PMSet98 で設定を変更する	119
3 外部ディスプレイの走査周波数	121
外部ディスプレイ表示のみの場合	121
同時表示の場合	121
4 音量の設定について	122
再生時の音量設定	122
録音時の音量設定	123
5 その他の注意事項	124
インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (NE4/600N, NE4/50R のみ)	124
全画面表示の設定について	124
WinDVD について (DVD-ROM ドライブが内蔵されている機種のみ)	126
索引	128

1

第 1 章

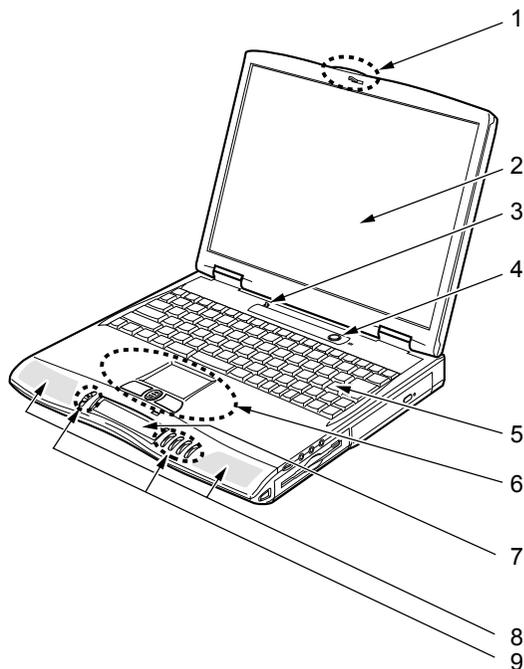
はじめに

各部の名称と働きや省電力機能など、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	各部の名称と働き	10
2	ワンタッチボタン / i-Panel について	18
3	フラットポイントについて	22
4	キーボードについて	25
5	スタンバイ / 休止状態について	28
6	バッテリーについて	36
7	液晶ディスプレイの明るさを変更する	43
8	画面の解像度と発色数について	44

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、右にスライドしてロックを外します。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありません。
- 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

3 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、本パソコンをスタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」(▶▶ P.28)

4 SUS/RES（サスレス）スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させるためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」(▶▶ P.28)

5 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「キーボードについて」(▶▶ P.25)

6 フラットポイント

マウスポインタを操作します。また、中央のスクロールボタンを押すと、画面が上下にスクロールします。

POINT

- ▶ フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。

7 i-Panel（アイパネル）

本パソコンの状態やメッセージなどが表示されます。

「ワンタッチボタン／i-Panel について」(▶▶ P.18)

8 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

9 ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、新着 E メールを受信したりするボタンです。

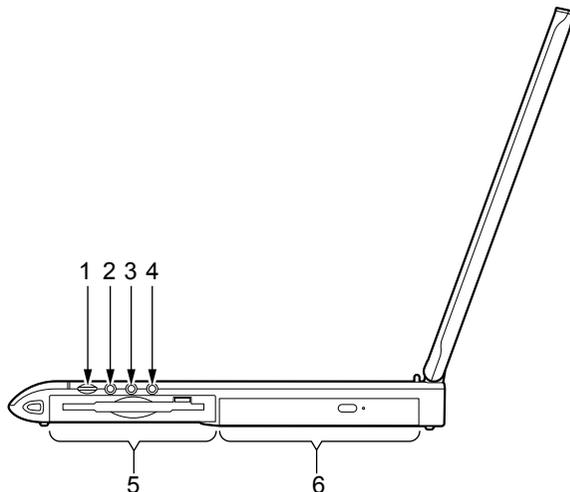
また、音楽 CD を再生することもできます。

「ワンタッチボタン／i-Panel について」(▶▶ P.18)

POINT

- ▶ ワンタッチボタンを使用する場合は、MAIN スイッチを OFF にしないでください。

パソコン本体右側面



⚠ 注意



- 接続した機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。ヘッドホン・ジャック、ラインイン・ジャック、マイクイン・ジャックに接続するときは、パソコン本体の音量ボリュームを最小にしてから、接続してください。

1 音量ボリューム

音量を調節します。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押してください。また、「Volume Control」ダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

音声入力出力時のバランスや音量などは、「Volume Control」ダイアログボックスで設定できます。音量ボリュームを最大にしても音量が不足する場合は、「Volume Control」ダイアログボックスで調整してください。

「音量の設定について」(▶▶ P.122)

2 ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意



- ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

3 ラインイン・ジャック／光デジタルオーディオ出力端子

AV 機器などの出力 (LINE OUT) 端子と接続するためのアナログ入力 (LINE IN) 端子です (外径 3.5mm のステレオミニプラグに対応)。また、MD プレーヤーなどの光デジタル入力 (OPTICAL) 端子と接続するための光デジタル出力端子としても使用します (外径 3.5mm の光ミニプラグに対応)。

重要

- ▶ 光デジタルオーディオ出力端子からは光が出力されていますので、端子にケーブルを接続するときなどに端子をのぞきこまないでください。
- ▶ 光デジタルオーディオ出力端子から出力されるデジタル音声の周波数は、48kHz に固定されています。接続するデジタル機器 (MD プレーヤーなど) にサンプリングレートコンバータが内蔵されていない場合は録音できません。詳しくは、各デジタル機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 光デジタルオーディオ出力端子にデジタル機器 (MD プレーヤーなど) を接続して録音した音声は、デジタル出力できません。光デジタルオーディオ出力端子からの出力には、すべてコピープロテクトが入ります。

POINT

- ▶ 本パソコンからは、ドルビーデジタル (AC-3) および DTS 対応アンプなどの機器へのデジタル音声出力はできません。

4 マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声 (モノラル) を録音するための端子です (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

5 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクのデータを読み書きします。

6 CD (シーディー) /DVD (ディーブイディー) ドライブ

CD-ROM のデータを読み出したり、音楽 CD を再生します。

また、CD-R/RW ドライブでは CD-R/RW の書き込みや書き替え、DVD-ROM ドライブでは DVD ビデオの再生や DVD-ROM の読み出しもできます。

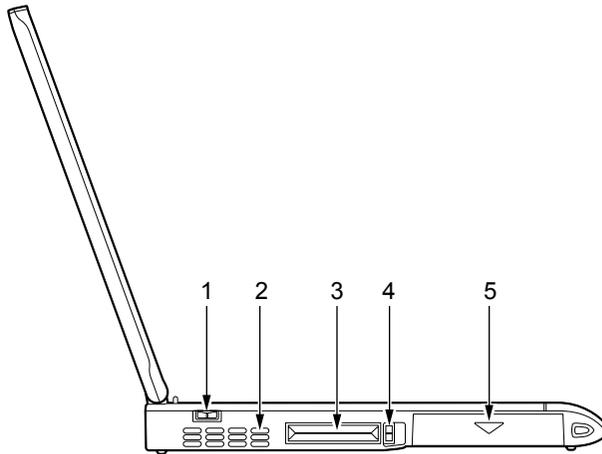
NE4/50R には CD-R/RW ドライブが搭載されています。その他の機種には、ご購入時に選択した次のいずれかのドライブが搭載されています。

- CD-ROM ドライブ
- CD-R/RW ドライブ
- DVD-ROM ドライブ

重要

- ▶ 本パソコンに搭載されている DVD-ROM ドライブでは、DVD-RAM の読み出しはできません。

パソコン本体左側面



1 MAIN（メイン）スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

2 空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。パソコン本体内部の温度が高くなると、回転します。

⚠ 注意



- 故障 ● 空冷用ファンの穴はふさがらないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

3 PC（ピーシー）カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。下段がスロット 1、上段がスロット 2 です。

「PC カードをセットする」(●▶ P.51)

🔍 POINT

- ▶ 別売の OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

4 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

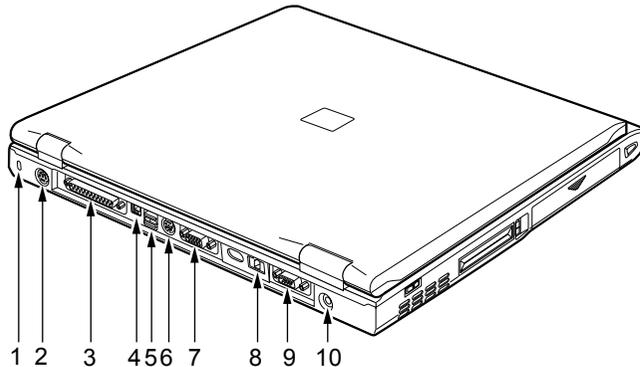
「PC カードを取り出す」(●▶ P.52)

5 内蔵バッテリーパック

内蔵バッテリーパックが装着されています。

「内蔵バッテリーパックを交換する」(●▶ P.41)

パソコン本体背面



1 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
- ▶ 商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）
商品番号：0522010
(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

2 拡張キーボード／マウスコネクタ

別売のテンキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。

「マウス／テンキーボードを使う」(▶▶ P.63)

3 パラレルコネクタ

別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。

「プリンタを接続する」(▶▶ P.66)

4 IEEE（アイトリプルイー）1394（DV（ディーブイ））端子

DV ケーブルを使ってパソコン本体とデジタルビデオカメラ（DV）などの周辺機器を接続するための端子です。

「デジタルビデオカメラを使う」(▶▶ P.82)

5 USB（ユーエスビー）コネクタ

USB マウス (▶▶ P.64) など、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

6 S 映像出力端子

S 映像信号を出力するための端子です。

「外部ディスプレイ／家庭用テレビを接続する」(▶▶ P.69)

7 外部ディスプレイコネクタ

別売の CRT（シーアールティ）ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「外部ディスプレイ／家庭用テレビを接続する」(▶▶ P.69)

8 モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

9 シリアルコネクタ

RS-232C（アールエス 232 シー）規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

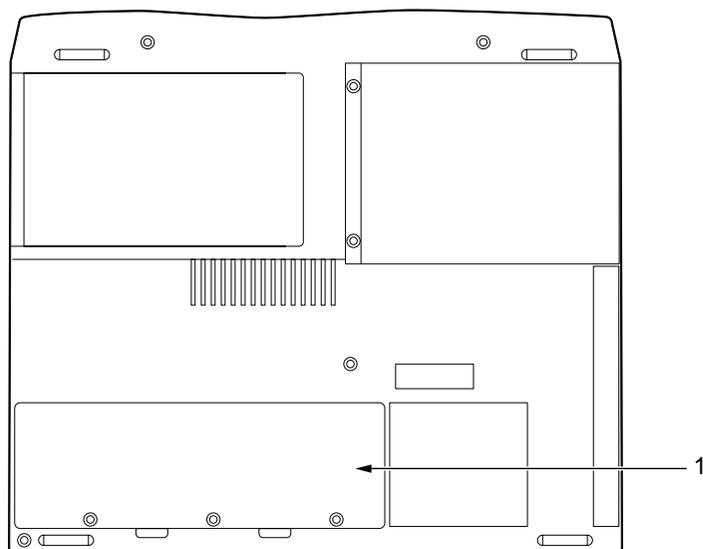
10 DC-IN（ディーシーイン）コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

パソコン本体下面

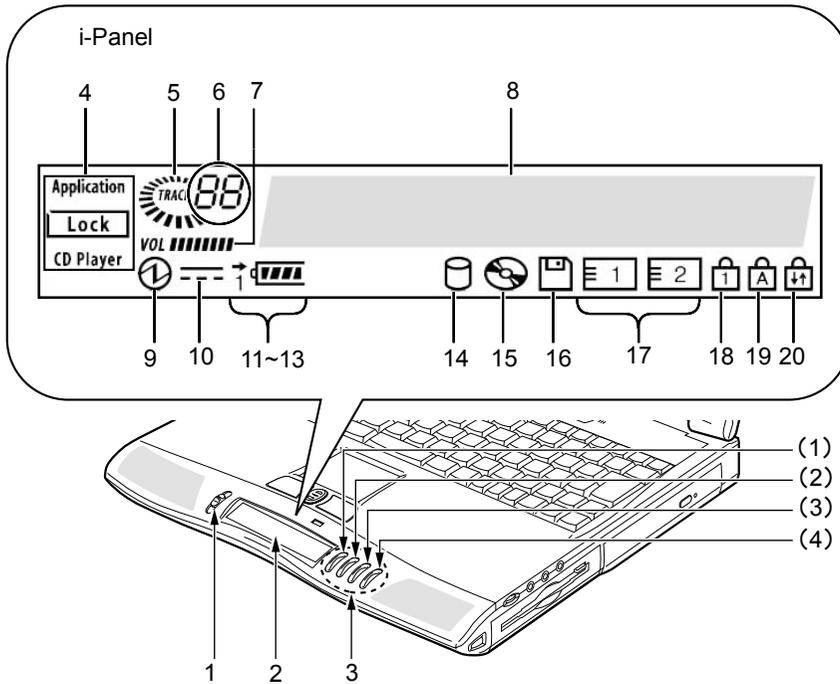


1 拡張 RAM (ラム) モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。

「メモリを増やす」(⇒▶ [P.54](#))

2 ワンタッチボタン / i-Panel について



1 モードスイッチ

モードスイッチの位置により、ワンタッチボタンの機能が切り替わります。ワンタッチボタンを使用しないときは、モードスイッチを中央の位置にしてください。

2 i-Panel

パソコンの状態やメッセージなどが表示されます。

3 ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、音楽 CD を操作したりできます。モードスイッチの位置により、ワンタッチボタンの機能は次のように切り替わります。

モードスイッチ の位置	ボタン			
	(1)	(2)	(3)	(4)
Application (上)	A ボタン	B ボタン	Internet ボタン	E-mail ボタン
Lock (中)	<input type="checkbox"/>  ボタンを押しながら  ボタンを押すと、メッセージ表示領域の表示が濃くなります。 <input type="checkbox"/>  ボタンを押しながら  ボタンを押すと、メッセージ表示領域の表示が薄くなります。			
CD Player (下)	停止／取り出し※ 	再生／一時停止 	曲戻し 	曲送り 

※ご購入時の設定では取り出し機能が働きません。設定を変更する場合は、ワンタッチボタン設定のヘルプをご覧ください。

Windows 起動中は、ワンタッチボタンの CD プレーヤーとボタンでの CD 操作が連携しています。

POINT

- ▶ 各ボタンに割り当てられているアプリケーションを変更したい場合は、『画面で見るマニュアル』の「アプリケーションガイド」の「ワンタッチボタン設定」をご覧ください。
- ▶  ボタンを押すと EJECT 機能(取り出し機能)が働くように設定を変更した場合は、CD の使用中に  ボタンを押さないでください。エラー画面が表示される場合があります。

4 モード表示

ワンタッチボタンのモードスイッチを切り替えると、現在のモードを で囲んで表示します。

POINT

- ▶ MAIN スイッチが OFF の場合は表示されません。

5 CD マーク

スタンバイ中または Windows シャットダウン時に音楽 CD を再生すると、 が回転します。

6 CD トラック表示

ワンタッチボタンの CD プレーヤーで音楽 CD を再生中に、再生中のトラック数などを表示します。

- 数字
再生中の曲番号を示します。停止しているときは先頭の曲番号が表示されます。
- --
音楽 CD をセットしていないとき、または音楽 CD の読み取り中に表示されます。
- SP
節電状態になっているときに表示されます。  ボタンを押すと音楽 CD を操作できる状態に戻ります。

7 音量ボリュームレベル表示

音量ボリューム (●▶ P.12) で設定した音量を 8 段階で表示します。

POINT

- ▶ 音量ボリュームでの設定と音量ボリュームレベル表示は一致していないように見えることがあります。

8 メッセージ表示領域

起動時やEメールが着信した場合など、状況に応じてさまざまなメッセージを表示します。

9 SUS/RES (サスレス) 表示 (⏻)

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイ状態 (●▶ P.29) のときに点滅します。

10 AC (エーシー) アダプタ表示 (⏻)

AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

11 バッテリー装着表示 (1、)

バッテリーが取り付けられているときに点灯します。

12 バッテリー充電表示 (➡)

バッテリーが充電しているときに点灯します。また、バッテリーが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。

「充電する」 (●▶ P.36)

13 バッテリー残量表示 ()

バッテリーの残量を表示します。

「残量を確認する」 (●▶ P.38)

14 ハードディスクアクセス表示 (⏻)

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。次ページの POINT もご覧ください。

15 CD アクセス表示 (⏻)

CD などにアクセスしているときに点灯します。

16 フロッピーディスクアクセス表示 ()

フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。次ページの POINT もご覧ください。

17 PC カードアクセス表示 (,)

PC カードにアクセスしているときに点灯します。次ページの POINT もご覧ください。

18 Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 ()

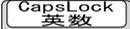
キーボードがテンキーモードのときに点灯します。

 を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「テンキーモードについて」 (●▶ P.27)

19 Caps Lock（キャプスロック）表示（）

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

 を押しながら  を押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

20 Scroll Lock（スクロールロック）表示（）

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

 を押しながら  を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。表示中の動作は、アプリケーションに依存します。

POINT

- ▶ ハードディスクアクセス表示やフロッピーディスクアクセス表示が点灯中に、MAIN スイッチを OFF にしたり SUS/RES スイッチを操作すると、ハードディスクやフロッピーディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- ▶ MAIN スイッチが OFF の場合は、充電中を除いて i-Panel の全表示が消灯します。
- ▶ PC カードアクセス表示は、別売の OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

3 フラットポイントについて

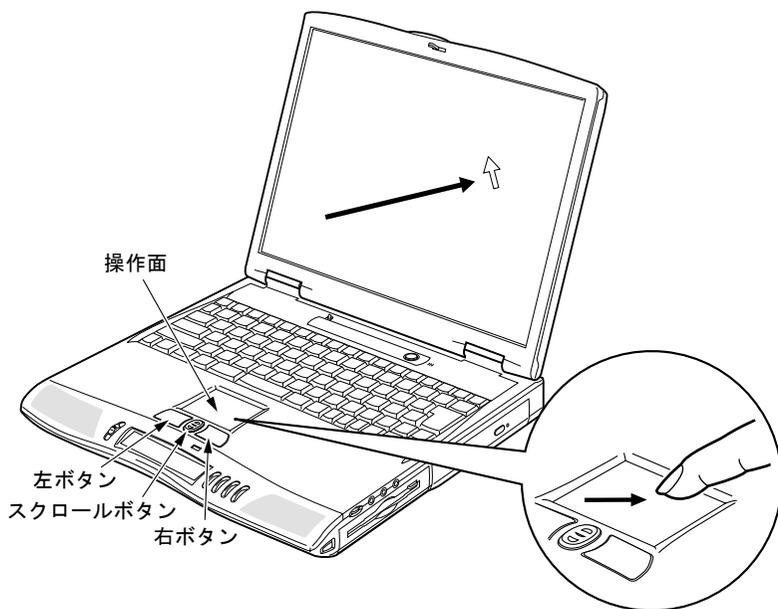
フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできるポインティングデバイスで、操作面とその手前にある2つのボタン、および中央のスクロールボタンで構成されています。

操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。

中央のスクロールボタンは、前後方向に押すことにより、簡単に画面を上下にスクロールできます。



POINT

- ▶ フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。
- ▶ 本パソコンにマウスを接続することもできます。
「マウス/テンキーボードを使う」(▶▶P.63)

フラットポイントの使いかた

● クリック



または



左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すか、操作面を1回タップ（軽くたたく）することです。

また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック

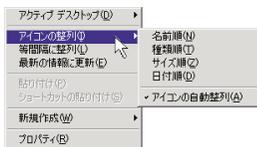


または



左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すか、操作面を2回連続してタップすることです。

● ポイント

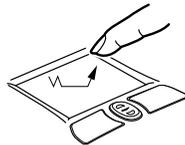


マウスポインタをメニューなどに合わせることで、ポイントすることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。また、ポイントしたメニューの下にサブメニューがある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、サブメニューが表示されます。

● ドラッグ

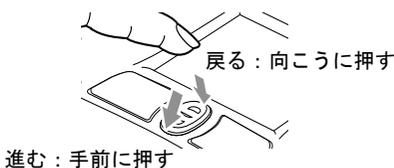


または



マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く2回タップします。2回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

 **POINT**

- ▶ 左右のボタンの役割やマウスポインタの速度などは、「コントロールパネル」ウィンドウの  (マウス) をクリックして表示される「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで変更できます。
- ▶ 操作面をタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。力を入れて行う必要はありません。
- ▶ マウスポインタは、操作面を指でなぞると、その方向に移動します。指が操作面の端まで来てしまった場合は、一度操作面から指を離し、操作面の適当な場所に指を降ろしてからもう一度操作面をなぞってください。

4 キーボードについて

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



1 Esc (エスケープ) キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

2 ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられます。

3 Num Lk (Num Lock (ニューメリカルロック)) キー

[Num Lk] を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

「テンキーモードについて」(⇒▶ P.27)

4 Insert (インサート) キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

4 Prt Sc (Print Screen (プリントスクリーン)) キー

表示されている画面を画像データにするときに使います。**[Fn]** を押しながら **[Prt Sc]** を押します。

[Alt] と **[Fn]** を押しながら **[Prt Sc]** を押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト(「ペイント」など)を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」を選ぶことなどで編集、保存、印刷ができます。

5 Delete（デリート）キー

カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Delete]** を押すと、応答しなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動できます。

6 半角／全角キー

文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。

7 Caps Lock（キャプスロック）英数キー

[Shift] を押しながら **[CapsLock 英数]** を押すと、英大文字固定モードになります。もう1度押すと解除されます。

8 Shift（シフト）キー

他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]** を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

9 Back Space（バックスペース）キー

カーソルの左側にある1文字を削除するときに使います。

10 Enter（エンター）キー

入力した文字を確定するときなどに使います。

ワープロソフトなどでこのキーを押すと改行が入力されるため、リターン（改行）キーともいいます。

11 Pg Up（Page Up（ページアップ））キー

前のページに切り替えるときに使います。**[Fn]** を押しながら **[Pg Up]** を押します。

12 カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

13 Fn（エフエヌ）キー

本パソコン独自の機能で、以下のように他のキーと組み合わせて使います。

- **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。
- BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」(●▶ P.96) の項目が「手動」に設定されているときに **[Fn]** を押しながら **[F4]** を押すと、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
「フラットポイントを無効にするには」(●▶ P.64)
- 800 × 600 ピクセル以下の解像度のときに **[Fn]** を押しながら **[F5]** を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
「全画面表示の設定について」(●▶ P.124)
- **[Fn]** を押しながら **[F6]** を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- **[Fn]** を押しながら **[F7]** を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(●▶ P.43)

- テレビを接続した状態で **[Fn]** を押しながら **[F8]** を押すと、テレビの表示と非表示を切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ P.73)
- 外部ディスプレイを接続したときに **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押すと、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ P.73)

14 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。

15 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

16 Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。

17 Application (アプリケーション) キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

フラットポイントの右ボタンの代わりになります。

18 Home (ホーム) キー

カーソルを行の最初に移動します。 **[Fn]** を押しながら **[Home]** を押します。

[Ctrl] と **[Fn]** を押しながら **[Home]** を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

19 Pg Dn (Page Down (ページダウン)) キー

次のページに切り替えるときに使います。 **[Fn]** を押しながら **[Pg Dn]** を押します。

20 End (エンド) キー

カーソルを行の最後に移動します。 **[Fn]** を押しながら **[End]** を押します。

[Ctrl] と **[Fn]** を押しながら **[End]** を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Num Lk]** を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、i-Panel に  が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

5 スタンバイ／休止状態について

スタンバイと休止状態

スタンバイとは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させることです。

休止状態とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切ることです。

これらの機能を利用すると、パソコンを使用中でも、メモリ内のプログラムやデータをそのままの状態に保持したまま、本パソコンの節電が行えます。

POINT

- ▶ スタンバイと休止状態の違いは以下のとおりです。
 - スタンバイ
 - メモリ内のプログラムやデータは、システム RAM（メモリ）で保持されます。スタンバイ中は、i-Panel の  が点滅します。
 - スタンバイ中はわずかに電力を消費します。電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、AC アダプタを接続していない場合はバッテリーから供給されます。
 - 「休止状態」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が短くなります。
 - 休止状態
 - メモリ内のプログラムやデータは、ハードディスクに書き込まれて保存されません。保存が完了すると、パソコン本体の電源が自動的に切れます。ただし、MAIN スイッチが ON（|側にスライドしている）の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF（○側にスライドしている）の状態にしてください。
 - 電源が自動的に切れるため、「スタンバイ」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が長くなります。

スタンバイする

重要

- ▶ バッテリでのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリーを満充電にした状態で、約 1 日です。スタンバイしているときにバッテリーが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。
- ▶ 長時間のスタンバイは行わないでください。本パソコンを長時間お使いにならない場合には、データを保存してから OS を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- ▶ スタンバイ中に、MAIN スイッチを OFF にしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- ▶ 以下の場合は、スタンバイしないでください。
 - OS の起動中または終了処理中
 - プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ハードディスクやフロッピーディスクにアクセス中
 - モデムで通信中
 - LAN カードなどでネットワークに接続中
 - ビデオ CD、DVD ビデオおよび MPEG ファイルを再生中
 - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
 - 接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な機器のみ）

作業を一時停止する（スタンバイ）

スタンバイするには、SUS/RES スイッチを使う方法、液晶ディスプレイを閉じる方法および「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスを使う方法があります。

POINT

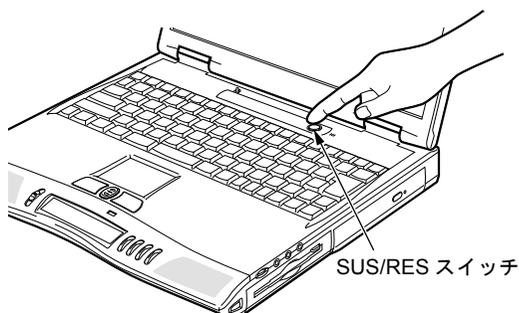
- ▶ 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、本パソコンはスタンバイしないことがあります。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイに時間がかかる場合があります。
- ▶ お使いになる PC カードによっては、バッテリーでのスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

■ SUS/RES スイッチを使う

1 i-Panel (→▶ P.18) の  や  などが点灯していないことを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると i-Panel の  が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。

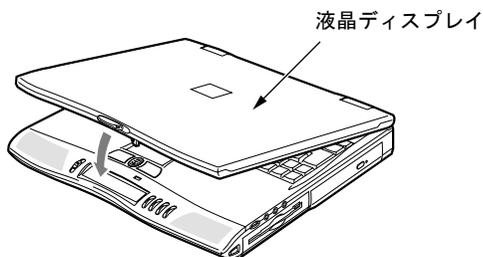


重要

- ▶ SUS/RES スイッチは4秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

■ 液晶ディスプレイを閉じる

1 i-Panel (→▶ P.18) の  や  などが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「なし」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイしないように設定できます。ご購入時は「スタンバイ」に設定されています。
「設定を変更する」(→▶ P.117)

■ 「Windows のシャットダウン」 ダイアログボックスを使う

- 1 「スタート」 ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」 ダイアログボックスが表示されます。
- 2  をクリックし、「スタンバイ」を選択し、「OK」をクリックします。

作業を再開する（レジューム）

一時停止するパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。レジュームするには、SUS/RES スイッチを使う方法と液晶ディスプレイを開く方法があります。

重要

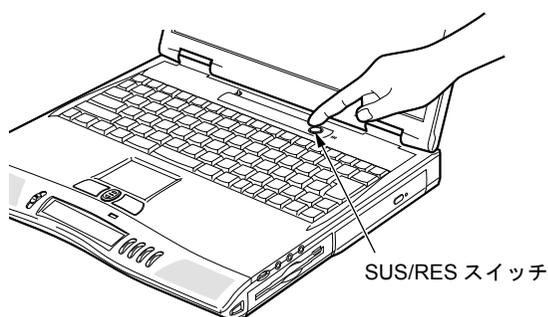
- ▶ スタンバイした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。
- ▶ SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作業中のデータが失われることがあります。

POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。

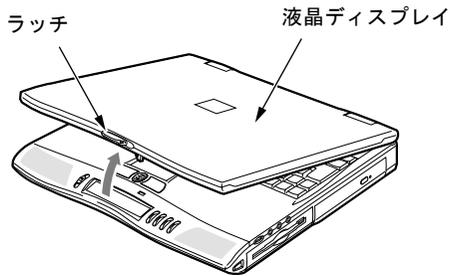
■ 液晶ディスプレイが開いているとき

- 1 i-Panel ([P.18](#)) の  が点滅していることを確認します。
- 2 SUS/RES スイッチを押します。



■ 液晶ディスプレイが閉じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。



POINT

- ▶ SUS/RES スイッチまたは「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスでスタンバイした場合は、液晶ディスプレイを開いてもレジュームしません。

■ モデム着信によるレジューム

通信アプリケーションによっては、通信アプリケーションを起動したままスタンバイしておくと、モデムへの着信によって自動的にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。フラットポイント（マウス）を操作すると画面が表示されます。フラットポイントを操作しても画面が表示されない場合は、などのキーを押してください。この操作をしても画面が表示されない場合は、i-Panel の  が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはスタンバイになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームしてください。

休止状態にする

休止状態にするには、「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで、「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックして に設定してください。ご購入時は に設定されています。

重要

- ▶ PC カードやプリンタなどの機器を接続した状態で休止状態にすると、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ▶ 以下の場合は、休止状態にしないでください。
 - OS の起動中または終了処理中
 - プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ハードディスク、フロッピーディスクにアクセス中
 - モデムで通信中
 - LAN カードなどでネットワークに接続中
 - ビデオ CD、DVD ビデオおよび MPEG ファイルを再生中
 - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
 - 接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な周辺機器のみ）

作業を一時停止する（休止状態）

休止状態にするには、SUS/RES スイッチを使う方法、液晶ディスプレイを閉じる方法、および「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスを使う方法があります。

重要

- ▶ MAIN スイッチが ON の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF の状態にしてください。

■ SUS/RES スイッチを使う

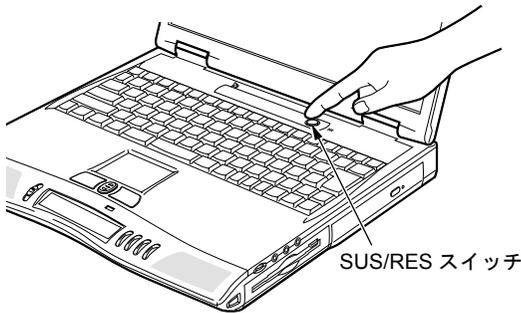
POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「休止状態」にしてください。ご購入時は「スタンバイ」に設定されています。

1 i-Panel (→▶ P.18) に  や  などが点灯していないことを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。

ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



■ 液晶ディスプレイを閉じる

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定を「休止状態」にしてください。ご購入時は「スタンバイ」に設定されています。

1 i-Panel (→▶ P.18) に  や  などが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。

しばらくすると、電源が切れます。

■「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスを使う

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2  をクリックし、「休止状態」をクリックし、「OK」をクリックします。

作業を再開する（レジューム）

重要

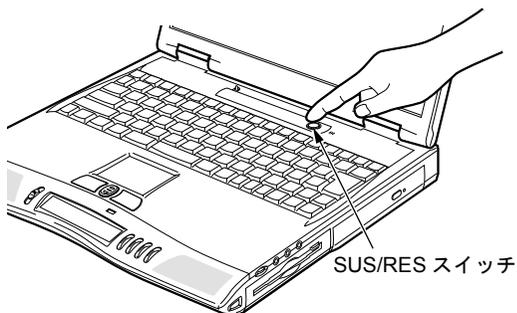
- ▶ 休止状態にした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。

POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。
- ▶ 休止状態にした場合、モデム着信によるレジューム（▶▶ P.32）はできません。

- 1 MAIN スイッチが OFF の状態のときは、MAIN スイッチを ON の状態にします。
- 2 SUS/RES スイッチを押します。

保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



6 バッテリーについて

本パソコンは、携帯での使用を考慮して、ACアダプタの他にバッテリーからも電源を供給することができます。

充電する

1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、i-Panelにバッテリー充電表示( の )と、そのときのバッテリー残量が表示されます。

2 バッテリー充電表示が消えたことを確認し、ACアダプタを取り外します。

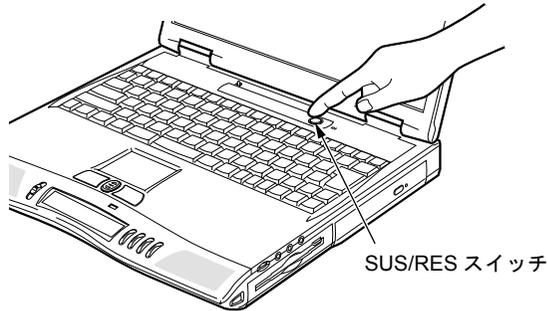
POINT

- ▶ 充電時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリーの充電は、バッテリー充電表示()が消え、左端のバッテリー残量表示が点滅()から点灯()に変わると完了です。バッテリーの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ MAINスイッチをOFFにしている場合、充電が完了してしばらくするとi-Panelの表示が消えます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります( が点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリーで使う

ここでは、バッテリーでの運用について説明します。

- 1 ACアダプタを取り外し、SUS/RESスイッチを押します。



POINT

- ▶ MAINスイッチをOFFにしている場合は、MAINスイッチをONにしてください。
- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼動時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼動時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、i-Panel のバッテリー残量表示で確認できます。

バッテリーの残量表示

-  約 100%～約 76%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 75%～約 51%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 50%～約 26%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 25%～約 13%のバッテリー残量を示します（充電中は、0%～約 25%のバッテリー残量を示します）。
↓
-  LOW バッテリー状態（約 12%以下のバッテリー残量）を示します。■ が点滅します。
↓
-  バッテリー切れ状態（0%のバッテリー残量）を示します。

POINT

- ▶ バッテリー残量表示（）は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ バッテリー切れになると、ワンタッチボタン設定の「パスワードの設定」が解除されたり、i-Panel のメッセージ表示領域のコントラスト（濃度）設定が変更される場合があります。この場合は、もう一度設定し直してください。

バッテリーの異常表示

-  バッテリーが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ▶  が表示される場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。「内蔵バッテリーパックを交換する」（▶ P.41）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリーが LOW バッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

LOW バッテリ状態の表示

i-Panel のバッテリー残量表示が点滅します ()。

LOW バッテリ状態の対処

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続するとバッテリーが充電されます。

POINT

- ▶ LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、最悪の場合、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してお使いください。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。

重要

- ▶ 本パソコンは、バッテリー残量が 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブでは「バッテリー切れアラーム」の次の項目の設定を変更しないでください。
 - ・「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」
 - ・「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリー切れのアラームの動作」ダイアログボックスの次の項目
 - ・「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」
 - ・「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」これらの項目をクリックして にした状態で使用すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

バッテリーの注意

警告



- バッテリーは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

● 放電について

- ・ バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- ・ 長期間（約 1ヵ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。

● 寿命について

- ・ パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
- ・ バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。
- ・ バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。

● 廃棄について

バッテリーを廃棄する場合は、バッテリーがショートしないようバッテリー端子をテープなどで絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

● バッテリー稼働時間を長くするには

省電力機能を使用します。

「省電力の設定」(▶▶ P.116)

● バッテリー稼働時間が短くなる場合について

- ・ バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- ・ バッテリーは、長期間使用していると充電容量が低下し、充電能力が落ちてきます。その場合は新しいバッテリーと交換してください。

● 次のような場合は AC アダプタを使用してください

- ・ パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ・ ハードディスクや CDなどを頻繁に使用するとき
- ・ LAN カードを使用するとき
- ・ パソコンをご購入時の状態に戻すとき

内蔵バッテリーパックを交換する

内蔵バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリーパックの交換について説明します。

警告

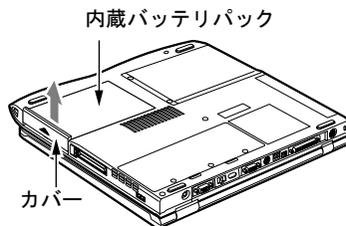


- 内蔵バッテリーパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

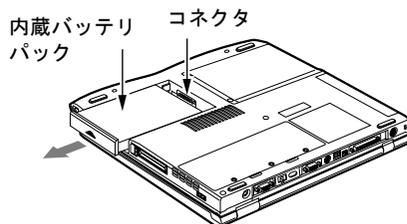
POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリーパックは、以下の製品をお買い求めください。
商品名：Li-ion バッテリーパック FM-26
商品番号：0643870
(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

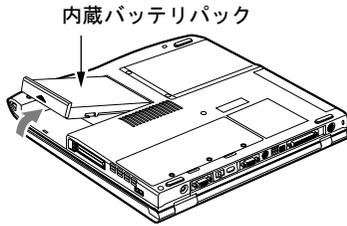
- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリーパックのカバーを上へスライドします。



- 4 内蔵バッテリーパックをスライドします。
内蔵バッテリーパックが、コネクタから外れます。

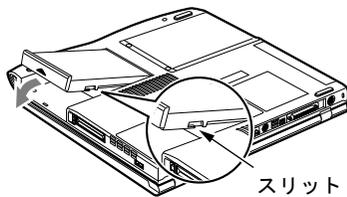


- 5** 内蔵バッテリーパックを斜め上に持ち上げながら取り外します。



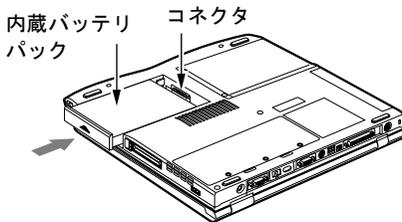
- 6** 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

パソコン本体の突起と内蔵バッテリーパックのスリットを合わせます。

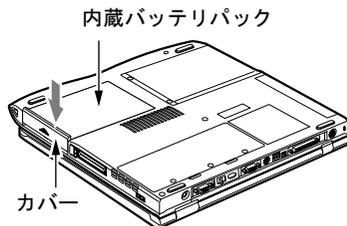


- 7** 内蔵バッテリーパックをスライドします。

コネクタが、内蔵バッテリーパックとしっかり接続するようにスライドしてください。



- 8** 内蔵バッテリーパックのカバーを下にスライドします。



POINT

- ▶ 内蔵バッテリーパックを交換すると、ワンタッチボタン設定の「パスワードの設定」が解除されたり、i-Panel のメッセージ表示領域のコントラスト（濃度）設定が変更される場合があります。この場合は、もう一度設定し直してください。

7 液晶ディスプレイの明るさを変更する

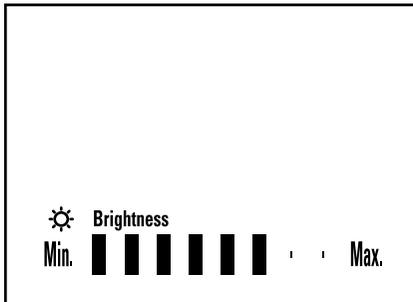
液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。

明るさを設定する

「PMSet98」の「電源依存」タブの「LCD バックライト」で設定できます。ACアダプタで使っているときと、バッテリーで使っているときの明るさを、それぞれ設定できます。設定のしかたについては、「省電力の設定」(▶▶ P.116)をご覧ください。

設定した明るさを変更する

キーボードを使用すれば、本パソコンを使用中でも上記の設定に関係なく、明るさを8段階に調節できます。**[Fn]**を押しながら**[F6]**で暗く、**[F7]**で明るくなります。調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。



POINT

- ▶ 本パソコンを再起動したり、スタンバイからレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。
- ▶ PMSet98を終了している場合は、明るさを示すインジケータが表示されません。

8 画面の解像度と発色数について

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。
この解像度と発色数以外には設定しないでください。

解像度	発色数
640 × 480 ピクセル※1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2
800 × 600 ピクセル※1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2
1024 × 768 ピクセル※3	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2
1280 × 1024 ピクセル※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2
1400 × 1050 ピクセル※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2
1600 × 1200 ピクセル※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット)※2 True Color (32 ビット)※2

- ※1 800 × 600 ピクセル以下の解像度に設定すると、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。この設定は変更することができます。
「全画面表示の設定について」(●▶ P.124)
- ※2 デザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1677 万色で表示されます。
- ※3 1024 × 768 ピクセルの解像度で3D アクセラレータを使用する場合、High Color (16 ビット)表示に設定してください。
- ※4 1280 × 1024 ピクセル以上に設定すると、液晶ディスプレイには1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

POINT

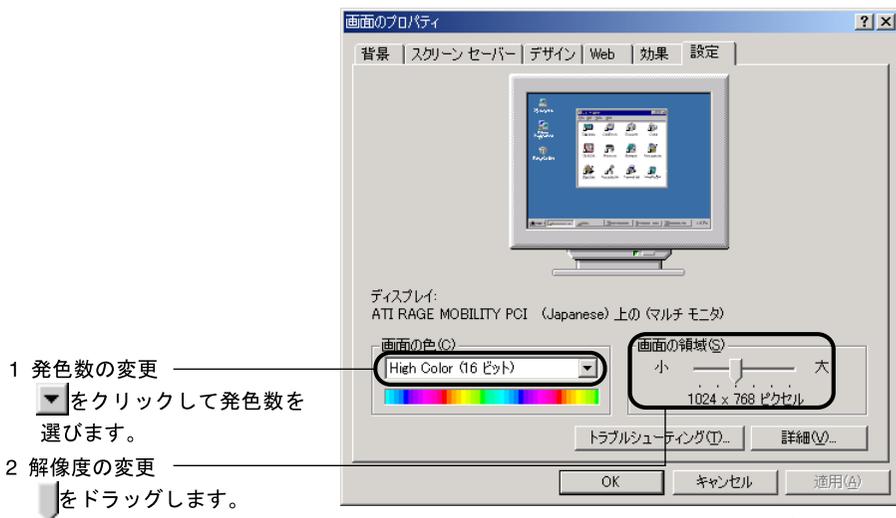
- ▶ ご購入時の解像度と発色数は次のとおりです。
1024 × 768 ピクセル、High Color (16 ビット)
- ▶ High Color (16 ビット) は 65536 色、True Color は 1677 万色です。
- ▶ 別売の外部ディスプレイや家庭用テレビを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイ／家庭用テレビの解像度と発色数について」(▶ P.76) をご覧ください。
- ▶ アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。

解像度や発色数を変更する

重要

- ▶ 解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

- 1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 発色数や解像度を変更します。



(画面は機種や状況により異なります)

4 「OK」をクリックします。

設定を確認するダイアログボックスが表示されます。表示されない場合は、自動的に設定が変更されます。

5 「OK」または「はい」をクリックします。

ダイアログボックスが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。画面の設定が変更されます。

第2章

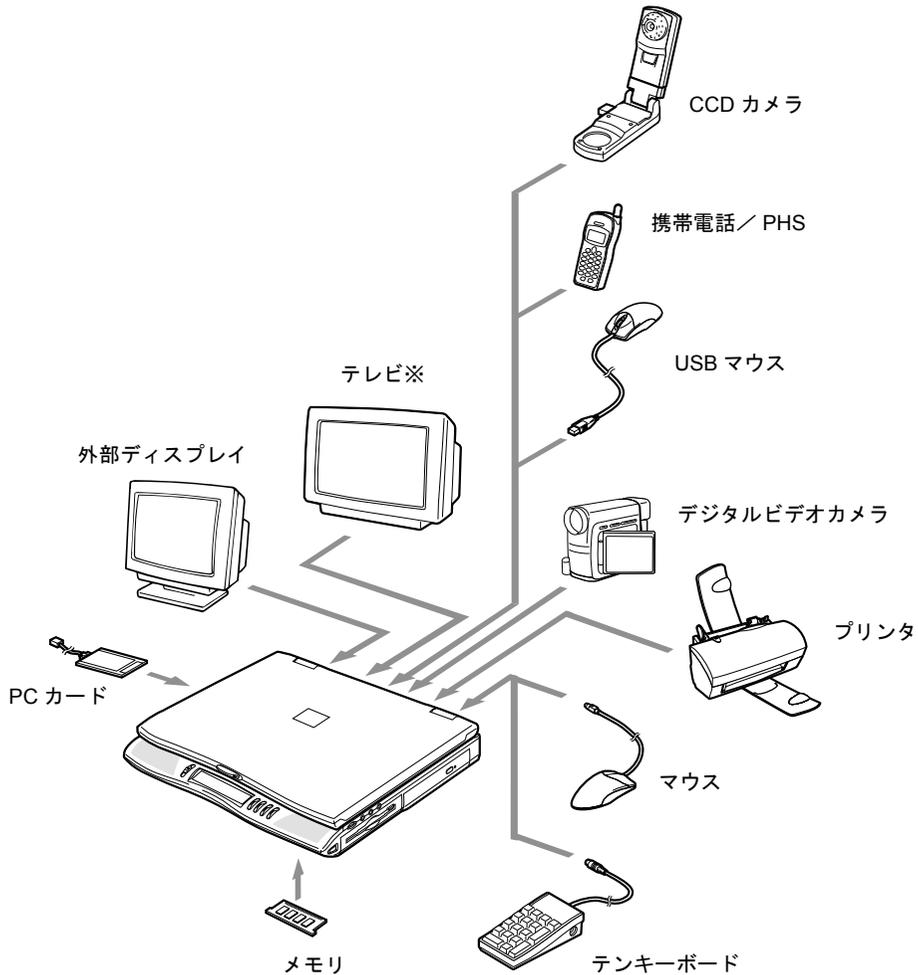
ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかななどを説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	48
2 PCカードを使う	50
3 メモリを増やす	54
4 携帯電話やPHSを接続する	59
5 マウス/テンキーボードを使う	63
6 プリンタを接続する	66
7 外部ディスプレイ/家庭用テレビを接続する	69
8 デジタルビデオカメラを使う	82

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



※ S 映像入力端子のあるテレビに接続できます。

周辺機器について

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。

- **周辺機器のマニュアルもご覧ください**

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- **純正品をお使いください**

弊社純正のオプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX 情報サービスをご利用ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

- **取り付け／取り外し時の注意**

PS/2 規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows のセットアップ終了後に行ってください。Windows のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

Windows のセットアップについては、『取扱説明書』をご覧ください。

POINT

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1 つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 PC カードを使う

PC カードを使うときの注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- カードをこすったりして静電気をおこさないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ▶ 代表的な PC カードには次のようなものがあります。
 - SCSI (スカジー) カード
SCSI 規格対応のハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
 - LAN (ラン) カード
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
- ▶ LAN カードやモデムカードなど、通信系の PC カードの中には、2 枚同時には使用できないものがあります。PC カードに添付のマニュアルで確認してください。
- ▶ 本パソコンでは、12V を使用する PC カードはサポートしていません。

必要なものを用意する

PC カード	PC Card Standard に対応した TYPE I (厚さ 3mm)、TYPE II (厚さ 5mm)、および TYPE III (厚さ 10.5mm) の PC カードが使えます。
PC カードのドライバ	PC カードによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。
PC カードのマニュアル	PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PCカードをセットする

PCカードは、名刺サイズのカードにモデムなどの周辺機器機能をもたせたカードです。ここでは、PCカードのセットについて説明します。

⚠ 注意



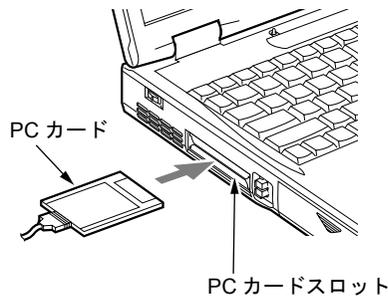
- PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

🔍 POINT

- ▶ PCカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

1 PCカードをセットします。

PCカードの製品名を上にしてPCカードスロットにしっかりと差し込みます。



2 初めてセットしたPCカードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PCカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

🔍 POINT

- ▶ PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、PC カードの取り出しかたについて説明します。

POINT

- ▶ コード付きの PC カードを取り出す場合、PC カードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

注意



● PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



● PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

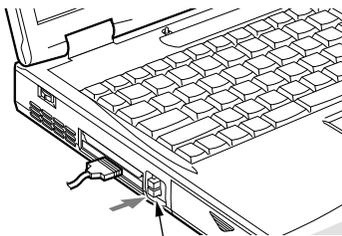
1 タスクバーの  (ハードウェアの取り外しまたは取り出し) をクリックします。

2 「XXXXXXXXX を停止します」をクリックします。
XXXXXXXXXには、お使いのPCカードの名称が表示されます。
PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。



3 「OK」をクリックします。

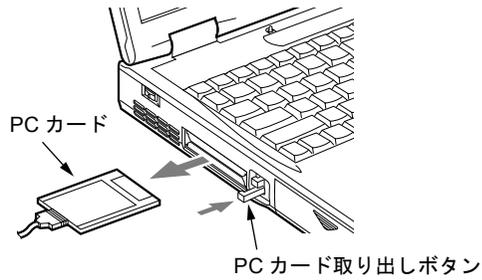
4 PC カード取り出しボタンを押します。
PC カード取り出しボタンが飛び出します。



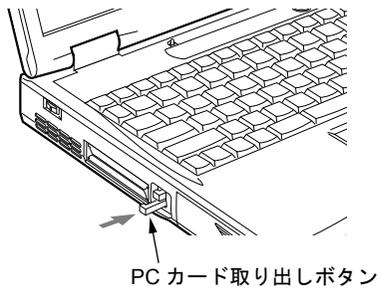
PC カード取り出しボタン

5 PCカードを取り出します。

PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。



6 PCカード取り出しボタンを押し込みます。



3 メモリを増やす

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

POINT

- ▶ 本パソコンの最大メモリ容量は、192MB です。
- ▶ メモリを増やす場合は、取り付けられている 64MB のメモリを取り外し、128MB のメモリを取り付けてください。
- ▶ ご購入時に192MBのメモリ容量を選択した場合は、メモリを増やすことはできません。

必要なものを用意する

メモリ (拡張RAM(ラム) モジュール)	FMVNM12SD (128MB) のメモリと交換できます。
プラスのドライバー (ドライバーサイズ: 1 番)	本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズ (M2.5) に合ったものをお使いください。 他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリを交換する

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの交換について説明します。

警告



感電

- メモリを交換する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



誤飲

- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



高温

- メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。メモリを交換するときは、パソコン本体の電源を切って、しばらくしてから行ってください。火傷の原因となることがあります。



故障

- メモリを交換するときは、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。



故障

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。



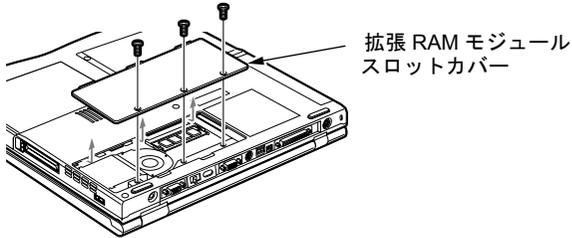
故障

- メモリを交換する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。スタンバイや休止状態中に行くと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

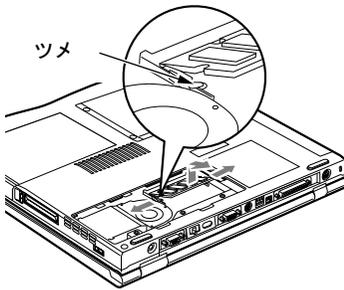
POINT

- ▶ メモリを交換する場合は、操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

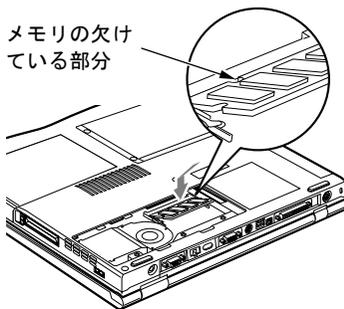
- 1** パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3** ネジ(3ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。
パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。



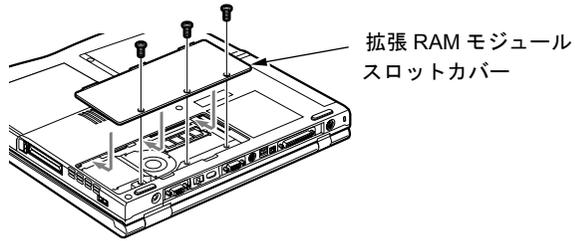
- 4** メモリを取り外します。
メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



- 5** 新しいメモリを取り付けます。
メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。



- 6** 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。
手順3 で外したカバーを取り付けます。



重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合はMAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

交換したメモリが使える状態か確認する

メモリを交換後、取り付けられたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ○で囲んだ部分の数値が、取り付けられたメモリの容量になっているかどうかを確認します。



メモリの容量はKBで表示されます。上の画面は、64MBのメモリを取り外して128MBのメモリに交換した場合の例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

POINT

- ▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。
「メモリを交換する」(▶▶ P.55)

4 携帯電話や PHS を接続する

携帯電話や PHS（ピーエイチエス）を接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

POINT

- ▶ 携帯電話や PHS で通信するためのドライバや情報(readme.txt)などは、次の CD に入っています。
 - ・スタンダードセットを選択した方：◎「アプリケーション CD」
 - ・Office 2000 Personal セットを選択した方：◎「アプリケーション CD2」
 ここでは◎「アプリケーション CD」と◎「アプリケーション CD2」をまとめて、◎「アプリケーション CD」と表記しています。

携帯電話／PHS で通信をするときの注意

携帯電話や PHS で通信を行う場合は、次の点に注意してください。

- ◎「アプリケーション CD」の「Fjusb」の中の readme.txt を必ずお読みください。
- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしでの対向接続はできません。
- AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で行ってください。
- 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイや休止状態にはできません。
- 携帯電話接続用 USB ケーブルまたは PHS 接続用 USB ケーブルでの通信後にスタンバイできない場合があります。この場合は、パソコン本体からケーブルを取り外してからスタンバイしてください。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- 電波状況によっては、通信が途中で切断されることがあります。この場合、携帯電話や PHS での通信が切断されていても、通信アプリケーションの通信が切断されていないことがあります。このようなときは、いったん通信アプリケーションでの通信を終了してから、もう一度通信を行ってください。
- 携帯電話接続用 USB ケーブルで通信中に Microsoft® NetMeeting を使用すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- 携帯電話接続用 USB ケーブルを NTT DoCoMo Doccimo に接続してお使いになる場合、Doccimo のモードを携帯電話から PHS、または PHS から携帯電話に変更するときは、いったん携帯電話から接続ケーブルを取り外し、再度接続してください。
「携帯電話や PHS 用のモデムを選択する」(▶▶ P.62)
- 携帯電話接続用 USB ケーブルで、大容量のファイルやメールの送受信を同時に複数行くと、途中でデータの送受信が止まってしまうことがあります。この場合は、1 つずつ送受信を行ってください。

USB コネクタに接続する

ここでは、接続ケーブル経由で本パソコンと携帯電話や PHS を接続する方法を説明します。

必要なものを用意する

デジタル携帯電話または PIAFS（ピアフ）対応の PHS	お使いになれる機種については、富士通パソコンホームページ FM WORLD (http://www.fmworld.net) にてご案内します。
携帯電話接続用 USB ケーブル	デジタル携帯電話と本パソコンを接続します。別売の FMV-CBL101 をお使いください。
PHS 接続用 USB ケーブル	PHS と本パソコンを接続します。別売の FMV-CBL102 をお使いください。

POINT

- ▶ PIAFS（ピアフ）
PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線（32/64Kbps）を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS に対応している必要があります。

携帯電話や PHS を接続する

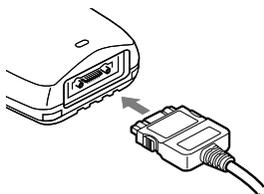
⚠ 注意

故障

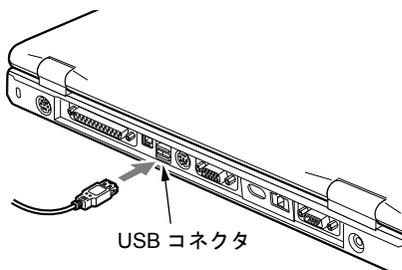


- ケーブルは本書および「アプリケーション CD」の「Fjusb」の中の readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

- 1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



- 2 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン背面の USB コネクタに接続します。コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。設定方法については、『インターネットガイド』をご覧ください。

🔍 POINT

- ▶ 携帯電話から携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を取り外す場合は、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- ▶ PHS から PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を取り外す場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話や PHS 用のモデムを選択する

重要

- ▶ 接続ケーブルを使用する前に、必ず④「アプリケーション CD」の「Fjusb」の中の readme.txt をお読みください。
- ▶ 本パソコンご購入時には、携帯電話接続用 USB ケーブル、および PHS 接続用 USB ケーブルのドライバは、インストールされていません。必ず④「アプリケーション CD」の「Fjusb」の中のドライバをインストールしてください。
- ▶ 別売のケーブルに④「FMV-CBL101/FMV-CBL102用ドライバCD V1.0.01」が添付されている場合がありますが、添付の CD は使用しないでください。

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話または PHS によって異なります。携帯電話や PHS のマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

- 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を使用する場合

携帯電話 / Doccimo のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話 (28800bps、パケット交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯電話モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS モード (32K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS モード (64K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

- PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を使用する場合

PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

5 マウス/テンキーボードを使う

POINT

- ▶ シリアルマウスを接続すると、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。

マウスの接続

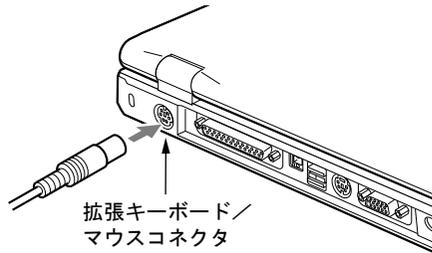
本パソコンは、拡張キーボード/マウスコネクタに、PS/2 規格のマウスを接続することができます。

1 パソコン本体の電源を切るか、スタンバイさせます。

「スタンバイする」(▶▶ P.29)

2 マウスを接続します。

マウスを拡張キーボード/マウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が、下側になるように接続してください。



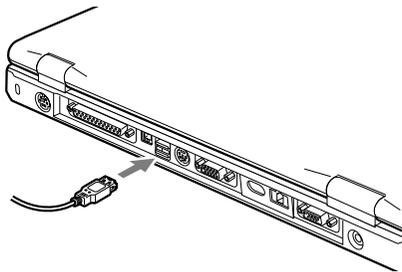
POINT

- ▶ PS/2 規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。
- ▶ フラットポイントと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード/マウス設定」(▶▶ P.96) で設定します。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(▶▶ P.87)
- ▶ スクロール機能付マウスを接続している場合は、本パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。

USB マウスの接続

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス（FMV-MO202L）を接続できます。

- 1 本パソコンの USB コネクタにマウスを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB マウスを接続してもフラットポイントは無効になりません。フラットポイントを無効にする場合は、「フラットポイントを無効にするには」(▶ P.64)をご覧ください。
- ▶ MS-DOS モードでは USB マウスは無効です。

フラットポイントを無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントと USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、次のように設定してください。

- 1 BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」(▶ P.96)の項目を「手動」に設定します。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(▶ P.87)
- 2 Windows が起動したら、**[Fn]** を押しながら **[F4]** を押します。
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。

重要

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

POINT

- ▶ **[Fn]** を押しながら **[F4]** を押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジャーム後は、フラットポイントが有効になります。
- ▶ BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「常に使用しない」に設定すると、フラットポイントは常に無効になります。

テンキーボードの接続

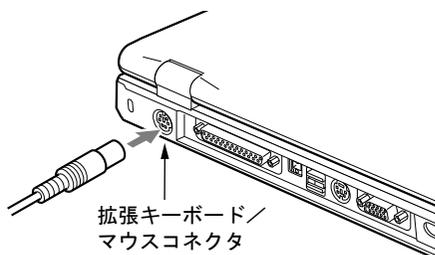
本パソコンは、拡張キーボード/マウスコネクタに、PS/2 規格のテンキーボードなどを接続することができます。ここでは、テンキーボードを接続する場合について説明します。

1 パソコン本体の電源を切るか、スタンバイさせます。

「スタンバイする」(▶▶ P.29)

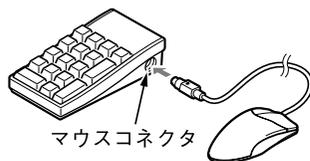
2 テンキーボードを接続します。

テンキーボードを拡張キーボード/マウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が下側になるように接続してください。

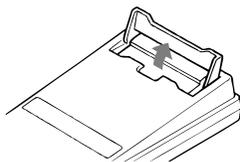


POINT

- ▶ テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。「テンキーモードについて」(▶▶ P.27)
- ▶ テンキーボードのマウスコネクタにマウスを接続することができます。



- ▶ テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



- ▶ 拡張キーボードコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。
- ▶ 親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK V7.0 以降が必要です。

6 プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

必要なものを用意する

プリンタ	Windows2000で動作可能なプリンタを用意してください。
プリンタのドライバ	プリンタによっては、CDやフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類ある場合は、「Windows2000用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V用」などと表示されたものをお使いください。
プリンタケーブル	プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。
プリンタのマニュアル	プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CDで見るマニュアルもあります。

プリンタを接続する

ここでは、パソコン本体の平行コネクタに、プリンタを接続する場合について説明します。

警告



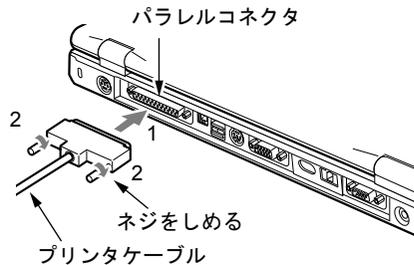
- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

注意



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体背面の平行コネクタに、プリンタケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定します (2)。



- 3 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。
- 4 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。
- 5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。
- 6 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。
プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。
ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

プリンタを使うときの注意

- プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によってはプリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。その場合は、次の手順でドライバをインストールしてください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックします。

2 「プリンタの追加」をクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。

POINT

- ▶ Windows2000のCD-ROMを要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は「OK」をクリックし、次に表示されるダイアログボックスで以下のように入力し、「OK」をクリックしてください。
c:¥i386
- ご購入時のCDドライブはEドライブです。CDからプリンタドライバをインストールする場合、ドライブ名には「e」と入力してください。

7 外部ディスプレイ／家庭用テレビを接続する

CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。家庭用のテレビを接続すると、本パソコンの画像をテレビに表示することができます。

必要なものを用意する

■ 外部ディスプレイを接続する場合

外部ディスプレイ	「PC/AT 互換機」または「DOS/V パソコン」対応のものを用意してください。
ディスプレイケーブル	外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。外部ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。 添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」と表示されたもので、外部ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。
外部ディスプレイのマニュアル	外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

■ 家庭用テレビを接続する場合

テレビ	S 映像入力端子のあるテレビを用意してください。
AV ケーブル (S 映像出力端子用)	テレビとパソコンを接続するケーブルです。市販の AV ケーブルを用意してください。
テレビのマニュアル	テレビにより接続方法が異なります。必ずテレビのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイを接続する

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

警告



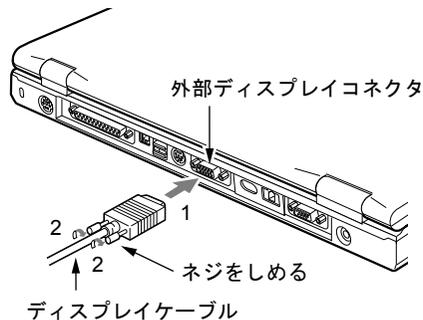
- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

注意



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。



- 3 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ [P.73](#))

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、以下のようになります。
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・ 「ハードウェアの追加と削除ウィザード」ダイアログボックスが表示されるこの場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

家庭用テレビを接続する

ここでは、パソコン本体背面の S 映像出力端子に家庭用のテレビを接続する場合について説明します。

警告



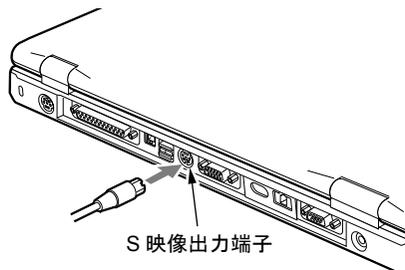
- テレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、テレビの電源も切り、電源ケーブルを取り外してください。感電の原因となります。

注意



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびテレビが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 テレビの電源を切り、電源ケーブルを取り外します。
- 3 パソコン本体背面の S 映像出力端子に、市販の AV ケーブルを接続します。
市販の AV ケーブルを、パソコン本体の S 映像出力端子にしっかり差し込みます。



- 4 テレビに市販の AV ケーブルを接続します。
接続方法は、テレビのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。
- 6 テレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
続いて、表示する画面を切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ P.73)

ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続した外部ディスプレイおよび家庭用テレビとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。

POINT

- ▶ ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイのみで表示する
 - ・ 接続した外部ディスプレイのみで表示する
 - ・ 接続した家庭用テレビのみで表示する
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイで同時に表示する
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した家庭用テレビで同時に表示する
 - ・ 接続した外部ディスプレイと、接続した家庭用テレビで同時に表示する
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイ、接続した外部ディスプレイ、および家庭用のテレビで同時に表示する
- ▶ 接続した家庭用テレビのみで表示する場合は、画面のプロパティから切り替えてください。キーボードからは切り替えられません。
- ▶ DVDやビデオCDなどの動画再生画面を家庭用テレビなどに表示する場合は、家庭用テレビのみで表示する設定に切り替えてください。

キーボードで切り替える

■ 外部ディスプレイに表示する

- 1 **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押します。

2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

■ 家庭用テレビに表示する

- 1 **[Fn]** を押しながら **[F8]** を押します。

2つのキーを押すごとに家庭用テレビの表示と非表示が切り替わります。

画面のプロパティで切り替える

- 1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「詳細」をクリックします。
- 4 「画面」タブをクリックします。

POINT

- ▶ 「画面」タブが表示されないときは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスを閉じてから、もう一度手順1～3の操作をしてください。

5 表示するディスプレイを選びます。

緑色の  をクリックするたびに、液晶ディスプレイ、外部ディスプレイおよび家庭用テレビで同時に表示するか、個別のディスプレイで表示するかを切り替えます。

- 液晶ディスプレイ、外部ディスプレイ、家庭用テレビで同時に表示する
緑色の  をクリックして、それぞれの  を押された状態にします。
- 液晶ディスプレイ、外部ディスプレイおよび家庭用テレビのうち、いずれか2台を同時に表示する
緑色の  をクリックして表示するディスプレイの  を押された状態にし、表示しないディスプレイの  を押されていない状態にします。
- 液晶ディスプレイのみ、外部ディスプレイのみ、または家庭用テレビのみで表示する
緑色の  をクリックして、それぞれの  を押された状態にし、表示しないディスプレイの  を押されていない状態にします。

表示するディスプレイを選びます。

選んだディスプレイの画面にウィンドウが表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

POINT

- ▶ 複数のディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・ 液晶ディスプレイ／外部ディスプレイ：プライマリ
 - ・ 家庭用テレビ：セカンダリ
- ▶ 1つのディスプレイでのみ表示する場合は、「プライマリ」に設定してください。

6 「OK」をクリックします。

ディスプレイの表示が切り替わり、「ATI プロパティページ」ダイアログボックスが表示されます。

7 「はい」をクリックします。**POINT**

- ▶ 「はい」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順5からやり直してください。

8 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。**重要**

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。
 - ・ 何も表示されない場合
 - 何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押して、表示先を切り替えてください。
 - ・ 正常に表示されない場合
 - 外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、以下の方法で設定を変更してください。
 - 1 デスクトップの何も無いところをクリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
 - 2 「設定」タブをクリックします。
 - 3 「詳細」をクリックします。
 - 4 「モニタ」タブをクリックします。
 - 5 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。
 - ダイアログボックスが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。
- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、本パソコンの電源を切ったあと、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更した際に、画面が表示できなくなる場合があります。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOS セットアップの「ディスプレイ」(▶ P.96)の項目を「外部ディスプレイ」または「同時表示」に設定してください。また、テレビに表示したいときには、BIOS セットアップの「TV 出力設定」(▶ P.96)の項目を「出力する」に設定してください。「BIOS セットアップの操作のしかた」(▶ P.87)
- ▶ Windows が起動すると、接続されているすべてのディスプレイに表示されます。お使いになる状況に合わせて設定し直してください。

外部ディスプレイ／家庭用テレビの解像度と発色数について

ここでは、外部ディスプレイや家庭用テレビで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。
この解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示	外部ディスプレイで表示
640 × 480 ピクセル	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ピクセル	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ピクセル ※3	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※2 True Color (32 ビット) ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1280 × 1024 ピクセル	256 色※4 High Color (16 ビット) ※4 True Color (24 ビット) ※2 ※4 True Color (32 ビット) ※2 ※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1400 × 1050 ピクセル	256 色※4 High Color (16 ビット) ※4 True Color (24 ビット) ※2 ※4 True Color (32 ビット) ※2 ※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1600 × 1200 ピクセル	256 色※4 High Color (16 ビット) ※4 True Color (24 ビット) ※2 ※4 True Color (32 ビット) ※2 ※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)

※1 800 × 600 ピクセル以下の解像度に設定すると、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。この設定は変更することができます。

「全画面表示の設定について」(▶▶ P.124)

※2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Colorに表示されます。

※3 1024 × 768 ピクセルの解像度で3D アクセラレータを使用する場合、High Color (16 ビット) 表示に設定してください。

※4 1280 × 1024 ピクセル以上に設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに 1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

重要

- ▶ 表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ▶ プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。
- ▶ 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ▶ 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ▶ 同時表示時に、外部ディスプレイの画面が正しく表示されないことがあります。

POINT

- ▶ High Color（16 ビット）は 65536 色、True Color は 1677 万色です。

家庭用テレビで表示できる解像度と発色数

表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

この解像度と発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと 家庭用テレビで同時表示	家庭用テレビで表示
640 × 480 ピクセル	256色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ピクセル	256色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ピクセル ※3	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※2 True Color (32 ビット) ※2	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1280 × 1024 ピクセル	256色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※5	256色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※5 True Color (32 ビット) ※5
1400 × 1050 ピクセル	256色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※6	256色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※5 True Color (32 ビット) ※5
1600 × 1200 ピクセル	256色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※6	256色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※5 True Color (32 ビット) ※5

※1 800 × 600 ピクセル以下の解像度に設定すると、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。この設定は変更することができます。

「全画面表示の設定について」(▶▶ P.124)

※2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Colorに表示されます。

※3 1024 × 768 ピクセルの解像度で3D アクセラレータを使用する場合、High Color (16 ビット) 表示に設定してください。

※4 1280 × 1024 ピクセル以上に設定すると、液晶ディスプレイに1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

※5 テレビ画面に1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

※6 テレビ画面に640 × 480 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

 **重要**

- ▶ 同時表示を選択した場合、家庭用テレビ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度となります。
- ▶ 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ▶ 同時表示時に、家庭用テレビの画面が正しく表示されないことがあります。

 **POINT**

- ▶ High Color（16ビット）は65536色、True Colorは1677万色です。

その他の組み合わせで表示できる解像度と発色数

表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

この解像度と発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと 外部ディスプレイと 家庭用テレビで同時表示	外部ディスプレイと 家庭用テレビで同時表示
640 × 480 ピクセル	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ピクセル	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (24 ビット) ※1 ※2 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ピクセル ※3	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※2 True Color (32 ビット) ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)
1280 × 1024 ピクセル	256 色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※5	256 色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※5 True Color (32 ビット) ※6
1400 × 1050 ピクセル	256 色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※6	256 色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※6
1600 × 1200 ピクセル	256 色※4 ※5 High Color (16 ビット) ※4 ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※4 ※5 True Color (32 ビット) ※2 ※4 ※6	256 色※5 High Color (16 ビット) ※5 True Color (24 ビット) ※2 ※6 True Color (32 ビット) ※2 ※6

※1 800 × 600 ピクセル以下の解像度に設定すると、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。この設定は変更することができます。

「全画面表示の設定について」(▶▶ P.124)

※2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color に表示されます。

※3 1024 × 768 ピクセルの解像度で 3D アクセラレータを使用する場合、High Color (16 ビット) 表示に設定してください。

※4 1280 × 1024 ピクセル以上に設定すると、液晶ディスプレイ、外部ディスプレイに 1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

※5 テレビ画面に 1024 × 768 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

※6 テレビ画面に 640 × 480 ピクセルの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

重要

- ▶ 表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ▶ プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。
- ▶ 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面や家庭用テレビ画面は、液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ▶ 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがあります。故障ではありません。
- ▶ 同時表示時に、外部ディスプレイや家庭用テレビの画面が正しく表示されないことがあります。

POINT

- ▶ High Color (16 ビット) は 65536 色、True Color は 1677 万色です。

外部ディスプレイ／家庭用テレビの解像度と発色数を変更する

外部ディスプレイや家庭用テレビの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「解像度や発色数を変更する」(▶ P.45) の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- 手順 1 の前に外部ディスプレイ表示、または家庭用テレビ表示に切り替えてください。
「ディスプレイの表示を切り替える」(▶ P.73)

POINT

- ▶ 変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

8 デジタルビデオカメラを使う

デジタルビデオカメラを接続すると、撮影した映像を本パソコンに表示することができます。

必要なものを用意する

デジタルビデオカメラ	お使いになれる機種については、富士通パソコンホームページ FM WORLD (http://www.fmworld.net) にてご案内いたします。
DV ケーブル	デジタルビデオカメラとパソコンを接続するケーブルです。コネクタが 4 ピンのものを用意してください。6 ピンのものはお使いになれません。
デジタルビデオカメラのマニュアル	デジタルビデオカメラにより接続方法が異なります。必ずデジタルビデオカメラのマニュアルもご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、デジタルビデオカメラで撮影した映像を表示したり編集したりするソフトウェア「MotionDV STUDIO」が添付されています。MotionDV STUDIO については、『画面で見るマニュアル』の「アプリケーションガイド」をご覧ください。

デジタルビデオカメラを接続する

ここでは、パソコン本体背面の IEEE1394 (DV) 端子に、デジタルビデオカメラを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



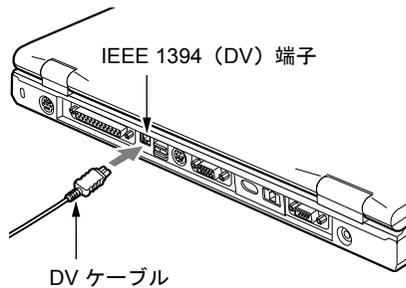
- デジタルビデオカメラの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

⚠ 注意



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびデジタルビデオカメラが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体背面の IEEE1394(DV)端子に、市販の DV ケーブルを接続します。
市販の DV ケーブルを、パソコン本体の IEEE1394 (DV) 端子にしっかり差し込みます。



- 3 デジタルビデオカメラに市販の DV ケーブルを接続します。
接続方法は、デジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。
- 4 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

5 デジタルビデオカメラに電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

本パソコンが起動すると、デジタルビデオカメラのドライバが自動的にインストールされます。

POINT

- ▶ ドライバが正しくインストールされたかどうかは、次の手順で確認してください。
 - 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 - 2  (システム) をクリックします。
 - 3 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
 - 4 「イメージングデバイス」の  をクリックし、一覧に「Microsoft DV Camera and VCR」が表示されているのを確認し、「デバイスマネージャ」ウィンドウの  をクリックします。
 - 5 「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

第 3 章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、設定を変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

1	BIOS セットアップとは	86
2	BIOS セットアップの操作のしかた	87
3	ご購入時の設定に戻す	92
4	メニュー詳細	94
5	BIOS のパスワード機能を使う	104
6	BIOS が表示するメッセージ一覧	107

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、以下の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（[P.87](#)）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 i-Panel (▶P.18) に  や  が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、 をクリックして「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、**[F2]** を押してください。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、以下のとおりです。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル

設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ		
メイン	詳細	セキュリティ
システム時刻: [00:34:56]	システム日付: [XXXX/XX/XX]	
フロッピーディスクA: [1.44/1.2 MB 3.5"]		
▶ プライマリマスター [XXXXXX XXXXXXXXX]		
▶ プライマリスレーブ [XXXXXX XXXXXXXXX]		
言語 (Language): [日本語 (JP)]		
F1 ヘルプ ↑ ↓ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定		項目ヘルプ
Esc 終了 ← → メニュー選択 Enter ▶ サブメニュー選択 F10 保存して終了		現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制)
		<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
		<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で **[F12]** を押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、<BIOS セットアップを起動> を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー
1. +フロッピーディスクドライブ
2. +ハードディスクドライブ
3. ATAPI CD-ROMドライブ
<BIOSセットアップを起動>

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1**  または  でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2**  または  でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3**  または  を押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
「BIOS セットアップを終了する」(▶▶ P.91)

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「変更内容を取り消す」(▶▶ P.90)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(▶▶ P.92)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して  を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは  を押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

 、 	設定する項目にカーソルを移動します。
 + 	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
 + 	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
 + 	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
 + 	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
 、 	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
 、 	各項目の設定を次の設定値に変更します。
 、 	メニューを切り替えます。
	印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
	標準設定値を読み込みます。
	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
 、  + 	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
 、  + 	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、  を押せば閉じます。

POINT

- ▶ ここでいうはのことです。
- ▶ 「+」でつながれたキーは、前半のキーを押しながら後半のキーを押す動作を表しています。たとえば + は、を押しながらを押す動作を表しています。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更前の値を読み込みますか？
[はい] [いいえ]

3 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ～ 3 回押してください。
- ▶ 次の操作をすると、設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

3 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ～ 3 回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。
「変更内容を取り消す」(▶▶ P.90)
- ▶ 次の操作をすると、いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

3 ご購入時の設定に戻す

本パソコンの「標準設定値」はご購入時の設定と異なります。
ここでは、設定値をご購入時の状態に戻し、CMOS RAM に保存する手順を説明します。
すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順2 から始めてください。

1 BIOS セットアップを起動します。

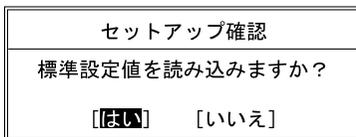
「BIOS セットアップを起動する」(▶▶ P.87)

2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

3 **[↑]** または **[↓]** を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



4 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 BIOS セットアップの次の項目の設定を変更します。

- 「詳細」メニューの「プラグアンドプレイ対応 OS」を「いいえ」に設定します。
- 「省電力」メニューの「省電力モード」を「使用しない」に設定します。

「設定を変更する」(▶▶ P.88)

この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

6 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

7 「変更を保存して終了する」を選択し、**Enter** を押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
はい	いいえ

8 **←** または **→** で「はい」を選択し、**Enter** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**Esc** を 2 ～ 3 回押してください。
- ▶ 保存後に設定操作を続けたいときは、手順 7 で「変更を保存する」を選択して、**Enter** を押してください。

4 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

- システム時刻
- システム日付
- フロッピーディスク A
フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。
- プライマリマスター
内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。
- プライマリスレーブ
CD ドライブのタイプと動作モードを設定します。

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(▶ P.103) を実行した直後は、「プライマリマスター」、「プライマリスレーブ」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数

POINT

- ▶ シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違えて設定すると、正常に動作しなくなります。
- ▶ 最大容量が 8.4GB を超えるハードディスクを取り付け、「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

■ 言語 (Language)

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、接続した周辺機器の設定などを行います。

■ プラグアンドプレイ対応 OS

本パソコンでは「いいえ」に設定してください。

■ デバイス設定の保護

■ シリアル/パラレルポート設定

POINT

▶ I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャンネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に * が表示されます。ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。

- シリアルポート
 - I/O アドレス
 - 割り込み番号
- パラレルポート
 - モード

「ECP」は、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャンネル」も設定してください。
 - I/O アドレス
 - 割り込み番号
 - DMA チャンネル

ECP モードに設定したときに表示されます。

■ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- ▶ マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をスタンバイ状態にして接続してください。
 - ▶ ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
 - ▶ 拡張キーボード／マウスコネクタに、『バーコードリーダー (FMV-BCR101)』、『バーコードタッチリーダー (FMV-BCR201)』、『磁気カードリーダー (FMV-MCR101)』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。また、「省電力モード」(▶▶ P.100) の設定も「使用しない」に設定してください。
 - ▶ 下記の「内蔵ポインティングデバイス」で「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、「ホットプラグ」は使用できません。
- 内蔵ポインティングデバイス

POINT

- ▶ Microsoft 社製の IntelliMouse™ は、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

■ ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」でも切り替えることができます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ P.73)
- 全体表示

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、**[Fn]** を押しながら **[F5]** を押すことで表示の切り替えを行うことができます。
- TV 出力設定
 - TV 出力モード

POINT

- ▶ 本パソコンでは「NTSC」に設定してください。

■ その他の内蔵デバイス設定

- フロッピーディスクコントローラ
- IDE コントローラ

■ PCI 設定

- 割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたい場合に、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

- IRQ 3 ~ IRQ 15

■ CPU 設定

- プロセッサシリアルナンバ (NE4/600N, NE4/50R のみ)
- Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー (NE4/600N のみ)

■ USB 設定

- USB フロッピーディスク

■ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

Enter を押すと、イベントログメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、下記のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX

- イベントログ
 - システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

- **管理者用パスワード**
管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。
- **ユーザー用パスワード**
ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。
- **管理者用パスワード設定**
管理者用パスワードを設定します。
- **ユーザー用パスワード設定**
「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

- **ユーザー用パスワード文字数**
「管理者用パスワード設定」が設定されている場合に設定できます。「ユーザー用パスワード設定」で設定するパスワードの最低文字数を設定します。

POINT

- ▶ 本設定はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

- **起動時のパスワード**
「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。
- **レジューム時のパスワード**
本項目は、本パソコンでは使用しません。
- **取外し可能なディスクからの起動**
「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

- **フロッピーディスクアクセス**

POINT

- ▶ 本項目は、本パソコンでは使用しません。

■ ハードディスクセキュリティ

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

- プライマリマスター
本パソコンの内蔵ハードディスクに対応します。
- プライマリスレーブ
本項目は、本パソコンでは使用しません。

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

■ 所有者情報

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

■ ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となります。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ▶ 項目によっては設定が無効になることがあります。詳細は各項目の説明をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップでは「スタンバイ」のことを「サスペンド」、「休止状態」のことを「Save To Disk」と表記しています。

■ 省電力モード

本項目は、本パソコンでは使用しません。

- ハードディスク省電力

POINT

- ▶ Windows2000起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

- ディスプレイ省電力

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「モニタの電源を切る」の設定が有効になります。

- スタンバイタイマー

本項目は、本パソコンでは使用しません。

- サスペンドタイマー

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、スタンバイします。

■ サスペンド動作

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。

- 自動 Save To Disk

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の設定が有効になります。

■ モデム着信によるレジューム

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。

■ 時刻によるレジューム

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目が無効となり、「タスク」の設定が有効になります。

■ レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定した場合は、レジュームする時刻を時：分：秒（24 時間制）で設定します。

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目が無効となり、「タスク」の設定が有効になります。

■ 詳細設定

- サスペンド／レジュームスイッチ
- カバークローズ サスペンド

POINT

- ▶ Windows2000 起動時は本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の設定が有効になります。

- カバーオープン レジューム
- シリアルマウス

本項目は、本パソコンでは使用しません。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■ 高速起動

■ 起動時の自己診断画面

■ 起動デバイスの優先順位

起動デバイスの優先順位を設定します。 または  で順位を変更するデバイスを選択し、 を押します。 を押すと選択したデバイスがリストの上側に移動し、 を押すとリストの下側に移動します。

- フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクから起動します。
- ハードディスクドライブ
ハードディスクから起動します。
- ATAPI CD-ROM ドライブ
CD などから起動します。

POINT

- ▶ CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。
再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数
- BIOS 日付
- BIOS 領域
- CPU タイプ
- CPU 速度
- L1 キャッシュ
- L2 キャッシュ
- 全メモリ容量
搭載しているメモリ（RAM）の容量が表示されます。
 - 標準メモリ
本パソコンに標準で取り付けられているメモリ（RAM）の容量が表示されます。
 - メモリスロット
拡張 RAM モジュールスロットに取り付けられているメモリ（RAM）の容量が表示されます。メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

- 変更を保存して終了する
- 変更を保存せずに終了する
- 標準設定値を読み込む
- 変更前の値を読み込む
- 変更を保存する

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、以下のとおりです。

- 1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(▶▶ P.87)

- 2 セキュリティメニュー (▶▶ P.98) の「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して **[Enter]** を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。 [<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。 [<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。 [<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。 [<input type="password"/>]

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、一般利用者用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」(▶ P.98) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら **[Enter]** を押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して **[Enter]** を押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 **[Enter]** を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。**[Enter]** を押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、**[Enter]** を押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ Windows2000 の場合、「電源オプションのプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ (▶ P.99) を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定した管理者用パスワードもしくはユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを変更する／削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (▶ P.104) を行います。
- 2 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

- 4 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して **[Enter]** を押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 5 **[Enter]** を押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。**[Enter]** を押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、**[Enter]** を押してください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外の時は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されません。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(▶▶ P.92)

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号 (IRQ) を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（▶▶ P.86）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- <ESC> キー：自己診断画面／<F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[Esc]** を押すと起動時の自己診断画面が表示され、**[F2]** を押すと BIOS セットアップが起動します。また、**[F12]** を押すと「起動メニュー」画面（▶▶ P.87）が表示されます。
- <F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[F12]** を押すと「起動メニュー」画面（▶▶ P.87）が表示され、**[F2]** を押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]** を押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（▶▶ P.102）の項目を「表示する」に設定してください。

エラーメッセージ

- システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx
誤りビット : zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx
誤りビット : zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- メモリキャッシュのエラーです。-- キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中で電源を切ってしまうたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は **[F1]** を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は **[F2]** を押してください。

- <F1> キー：継続 / <F2> キー：BIOS セットアップ

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。**[F1]** を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、**[F2]** を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- 日付と時刻の設定を確認してください。

日付と時刻の設定値が不正です。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- パスワードで保護されています。：ハードディスク n

取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- サポートされないタイプのメモリが検出されました。

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- **メモリタイプのエラーです。 : SPD が 66MHz のメモリを示しています。**
本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
メモリ速度 100MHz で起動しますか？
< Y > を押すとこのまま起動し、< N > を押すとシステムを停止します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
[N] を押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
メモリ速度 100MHz で起動します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。**
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。**
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、休止状態にできないことを示しています。
- **ハードディスクが検出されませんでした。**
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **不明な Save To Disk エラーが発生しました。**
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
- Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。
- Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。
- Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、 などを押してください。
- Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、 などを押してください。
- Operating system not found
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

第4章 技術情報

4

本パソコンのお手入れや注意事項などを記載しています。

1	ハードウェアのお手入れ	114
2	省電力の設定	116
3	外部ディスプレイの走査周波数	121
4	音量の設定について	122
5	その他の注意事項	124

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3カ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

- 1 クリーニングフロッピーをセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 3 次のように入力し、を押します。
dir a:
「dir」と「a:」の間は、を1回押してください。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示が消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「コマンドプロンプト」ウィンドウのをクリックします。

廃棄について

本パソコンの液晶ディスプレイ（LCD）内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。また、本パソコンはリチウム電池を、またバッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

2 省電力の設定

ご購入時の節電の設定

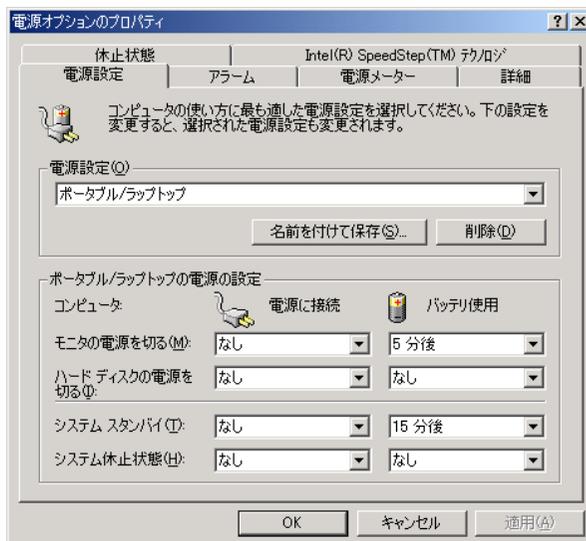
本パソコンご購入時には、バッテリーで使うときに節電されるように設定されています。節電の設定は、通常お使いになるうえでは、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows2000の「電源オプション」または「PMSet98」を使います。

「電源オプション」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときなどは、「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで設定します。

「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスを表示する

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 （電源オプション）をクリックします。「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

設定を変更する

POINT

- ▶ 変更のしかたや設定項目については、Windows のヘルプをご覧ください。

■「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイに移行するまでの時間を設定する場合は、「システムスタンバイ」で時間を選択してください。スタンバイしたときのメモリ内のデータなどの保存先は、システム RAM になります。

休止状態に移行するまでの時間を設定する場合は、「システム休止状態」で時間を選択してください。休止状態にしたときのメモリ内のデータなどの保存先は、ハードディスクになります。「システムスタンバイ」よりも「システム休止状態」の時間を長く設定すると、スタンバイ後に休止状態に移行します。

POINT

- ▶ ワンタッチボタン設定が起動中、バッテリーの充電中や本パソコンをバッテリーで使っているあいだは、「システムスタンバイ」の設定が無効になります。
- ▶ ワンタッチボタン設定の「メールチェック間隔設定」を使用する場合は、「モニタの電源を切る」と「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

■「アラーム」タブ

バッテリーの残量が少なくなったときに Windows が出す警告についての設定をします。

「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」をクリックして にしないでください。バッテリーが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

POINT

- ▶ バッテリーの残量が約 12% 以下の状態を、「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリー残量表示 (i-Panel の ) が点滅します。
「LOW バッテリー状態」 (▶▶ P.39)

■「詳細タブ」

SUS/RES スイッチやカバークローズスイッチを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します。ご購入時は、スタンバイに設定されています。

POINT

- ▶ SUS/RES スイッチを押したときの状態は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で設定できます。
- ▶ カバークローズスイッチを押したときの状態は、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で設定できます。

■「休止状態」タブ

本パソコンを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックして、にすると、「電源設定」タブで自動的に休止状態に移行するまでの時間を設定できます。また、「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できます。ご購入時は、に設定されています。

■「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブ (NE4/600N のみ)

本パソコンをバッテリーで使っているときに、CPU クロックの周波数を落とすとともに、CPU 動作電圧を落とすことで節電するかどうかを設定します。

本パソコンを AC アダプタで使っているときとバッテリーを使っているときで、別々に設定できます。

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」に設定した場合、消費電力が低くなるので、バッテリー稼動時間が長くなります。

POINT

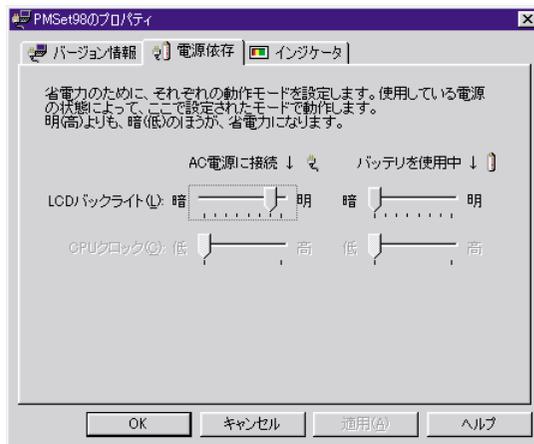
- ▶ タスクバーの  (Intel (R) SpeedStep (TM) テクノロジ) をダブルクリックしても設定画面が表示されません。
- ▶ 「Intel (R) SpeedStep (TM) テクノロジ」ダイアログボックスと「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスは、同時に表示しないでください。
- ▶ Direct3D を使用するアプリケーションを起動中は以下の操作を行わないでください。
 - AC アダプタを抜き差しする
 - 「Intel (R) SpeedStep (TM) テクノロジ」ダイアログボックスまたはタブの設定を変更する
- ▶ BIOS セットアップの「Intel (R) SpeedStep (TM) テクノロジ」(▶▶ P.97) の項目でも設定を変更できます。Intel SpeedStep の設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

PMSet98 で設定を変更する

PMSet98 には、現在の設定内容が表示される「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示する

- 1 タスクバーの  または  をダブルクリックします。
「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



POINT

- ▶ タスクバーに  または  が表示されていない場合は、「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタン→「プログラム」→「PMSet98」→「1.PMSet98」の順にクリックし、PMSet98 を起動してください。
- ▶ バッテリーの充電中は、タスクバーの  が点滅しています。
- ▶ PMSet98 は、Windows を起動するたびに自動的に起動します。
PMSet98 を使用しない場合は、タスクバーの  または  を右クリックし、「終了」をクリックします。

インジケータを表示する

インジケータには、バッテリー残量や電源の状態が表示されます。

- 1 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示します。
- 2 「インジケータ」タブをクリックします。
- 3 「インジケータを表示する」をクリックしてにします。
- 4 「表示位置」の▼をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

 : ACアダプタ接続時

 : バッテリーで使用時

POINT

- ▶ 表示位置について
 - ・ インジケータと他のウィンドウが重なった場合は、インジケータが常に前面に表示されます。
 - ・ インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
 - ・ 「自由位置 [ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- ▶ 「種類」の▼をクリックすると、インジケータの種類を選べます。
- ▶ 電源の状態が表示されないときは、「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてにします。

設定を変更する

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスで設定できる項目について説明します。

■ LCD バックライト

液晶ディスプレイの明るさ (LCD バックライト) を変更して、節電するかどうかを設定します。「電源依存」タブの「LCD バックライト」で、AC アダプタで使っているときとバッテリーで使っているときを、別々に設定できます。明るさは 8 段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。

設定を変更した場合は、「適用」または「OK」をクリックしてください。

POINT

- ▶ **[Fn]** を押しながら **[F6]** または **[F7]** を押しても、LCD バックライトの明るさを変更できません。
- ▶ 「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(▶▶ P.43)
- ▶ 本パソコンでは、「CPU クロック」の項目は設定できません。

3 外部ディスプレイの走査周波数

外部ディスプレイ表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選択することができます。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

「ディスプレイの表示を切り替える」(▶▶ P.73)

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31 – 43	60 – 85
800 × 600	37 – 53	60 – 85
1024 × 768	48 – 68	60 – 85
1280 × 1024	64 – 91	60 – 85
1400 × 1050	64	60
1600 × 1200	75	60

同時表示の場合

解像度や発色数に関係なく一定です。

水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
48.5	60.0

4 音量の設定について

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「Volume Control」ダイアログボックスでそれぞれの音量を調節します。

「Volume Control」ダイアログボックスを表示するには、タスクバーの  (音量) をダブルクリックします。

POINT

- ▶ 項目名のあとに※が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。
- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 - 1 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 - 2 「表示するコントロール」で、項目をクリックして にします。項目が表示されるようになります。
- ▶ 解像度によっては、「Volume Control」ダイアログボックスなどの一部を表示できないことがあります。

再生時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「再生」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。

項目	ミュート	設定する音量
Volume Control	×	パソコン全体の音量
WAVE	×	Wave ファイルの音量
3D Wide ※	×	3D 効果の調整
ZV Port ※	○	未使用
Auxiliary ※	○	未使用
Video ※	○	未使用
CD Audio	×	音楽 CD の音量
Line	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
Microphone ※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクの音量
Telephony ※	×	モデムの音量
Midi Out	×	MIDI の音量
Mono Out ※	×	未使用

POINT

- ▶ ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。
- ▶ マイクイン・ジャックにマイクを接続していないときは、「Microphone」のミュートをクリックして にしないでください。

録音時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、録音時の音量を設定できます。

項目	選択	設定する音量
Mono+Mic ※	×	未使用
Stereo Out ※	×	再生音全体の録音音量
Auxiliary ※	×	未使用
Video ※	×	未使用
CD Audio	×	音楽 CD の録音音量
Line	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクの録音音量
Telephony ※	×	モデムの録音音量

5 その他の注意事項

インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (NE4/600N, NE4/50R のみ)

インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバ

モバイル Pentium® III プロセッサに組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。プロセッサ・シリアル・ナンバはソフトウェアアプリケーションを使用して読み取りが可能です。また、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「CPU 設定」(▶▶ P.97) を使用して読み取り機能の「有効」または「無効」を設定することができます。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(▶▶ P.87)

■ プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバについては、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii> をご覧ください。

全画面表示の設定について

ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選ぶと、画面が全画面表示になります。ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだ場合に画面がディスプレイ中央に小さく表示されるようにするには、次の手順で設定を変えてください。

- 1** デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「詳細」をクリックします。
- 4** 「画面」タブをクリックします。

5 「パネル」をクリックします。

「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

6 「イメージをパネルサイズに」の左側の をクリックして にします。

にすると、ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだ場合に、画面が液晶ディスプレイ中央に小さく表示されます。

にすると、ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだ場合に、画面が液晶ディスプレイ全体に大きく表示されます。

7 「OK」をクリックします。

「(マルチモニタ) と ATI RAGE MOBILITY PCI (Japanese) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

8 「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

9 「OK」をクリックします。**POINT**

- ▶ ご購入時の解像度は、1024 × 768 ピクセルです。

WinDVD について (DVD-ROM ドライブが内蔵されている機種のみ)

ここでは、本パソコンに搭載されている DVD-ROM ドライブで DVD を再生する場合の注意事項について説明します。

WinDVD を起動する前に

- DVD-ROM ドライブの DMA 転送がアクティブになっていることを確認してください。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスで「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックし、「プライマリ IDE チャンネルのプロパティ」ダイアログボックスの「詳細設定」タブで「デバイス 1」の転送モードが「DMA (利用可能な場合)」に設定されている場合は、アクティブになっています。
- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで解像度を「1024 × 768」、色数を「High Color (16 ビット)」に設定してください。
「解像度や発色数を変更する」(▶▶P.45)
- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「トラブルシューティング」タブにある「ハードウェアアクセラレータ」の設定を「最大」にしてください。
- 解像度や色数、表示するディスプレイなどを変更した場合は、Windowsを再起動してから WinDVDを起動してください。誤動作の原因となります。
- 自動的にパソコン本体がスタンバイまたは休止状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
「省電力の設定」(▶▶P.116)

重要

- ▶ WinDVD がインストールされている状態で、他の DVD 再生アプリケーションをインストールしないでください。WinDVD が正常に動作しなくなる場合があります。
- ▶ ビデオ CD の一部は、WinDVD で正常に再生できない場合があります。この場合は、Windows Media Player などで再生してください。
- ▶ WinDVD と他の動画再生アプリケーションや画像処理アプリケーションを同時に起動しないでください。
- ▶ WinDVD と他の音声再生アプリケーションを同時に起動しないでください。
- ▶ WinDVD の起動中は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。

再生時の注意事項

- DVD ディスクによっては、セットすると自動的に再生が始まる場合があります。
- DVD の再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。
- DVD によっては、再生中に操作パネルおよびショートカットメニューの項目を変更できない場合があります。
- ルートメニューおよびタイトルメニューでの各操作は、操作上のパネルのボタンで行ってください。
- DVD によっては、本編が始まないと「タイトルメニュー」、「ルートメニュー」などが表示できないものがあります。このような場合は誤動作の原因となりますので、本編が始まったあとに操作を行ってください。
- 再生する DVD によっては、WinDVD の一部の機能が使用できない場合があります。
- キャプション表示とサブタイトル表示は、同時に表示することはできません。
- 各ボタンを操作する間隔は、1 秒以上あけてください。
- マルチ音声カラオケの DVD ディスクを使用する場合、その音声切り換えは、操作パネルの「プロパティ」の「オーディオ設定」タブにある「ボーカルオプション」で設定してください。

POINT

- ▶ 市販されているアンチウイルスソフトと WinDVD を同時に起動することはできません。自動検索の機能をもつアンチウイルスソフトに関しては、WinDVD を起動する前に一時的にアンインストールを行ってください。なお、本パソコンにインストールされている VirusScan については問題ありません。
- ▶ 再生するディスクによっては、コマ落ちをする場合があります。
- ▶ ディスクの再生中に他のアプリケーションを起動すると、音や映像が途切れる場合があります。なお、定期的に自動起動して、ウィルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- ▶ ディスクによっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- ▶ ワンタッチボタン (▶▶ P.11) での DVD の再生などはできません。

索引

A

- AC (エーシー) アダプタ表示..... 20
- Alt (オルト) キー..... 27
- Application (アプリケーション) キー..... 27

B

- Back Space (バックスペース) キー..... 26
- BIOS
 - ーセットアップ..... 86
 - ーセットアップ画面..... 87
 - ーセットアップの各キーの役割..... 89
 - ーセットアップの設定を変更する..... 88
 - ーセットアップの変更内容を
取り消す..... 90
 - ーセットアップを起動する..... 87
 - ーセットアップをご購入時の設定に
戻す..... 92
 - ーセットアップを終了する..... 91
 - ーのパスワード機能を使う..... 104

C

- Caps Lock (キャプスロック) 英数キー... 26
- Caps Lock (キャプスロック) 表示..... 21
- CD アクセス表示..... 20
- CD ドライブ..... 13
- Ctrl (コントロール) キー..... 27

D

- DC-IN (ディーシーイン) コネクタ..... 16
- Delete (デリート) キー..... 26
- DVD (ディーバイディー) ドライブ..... 13

E

- End (エンド) キー..... 27
- Enter (エンター) キー..... 26
- Esc (エスケープ) キー..... 25

F

- Fn (エフエヌ) キー..... 26

H

- High Color (16 ビット)..... 45, 77
- Home (ホーム) キー..... 27

I

- IEEE (アイトリプルイー) 1394
(DV (ディーバイ)) 端子..... 15
- Insert (インサート) キー..... 25
- Intel(R) SpeedStep(TM)..... 118
- i-Panel (アイパネル)..... 11, 18

L

- LAN (ラン) カード..... 50
- LOW バッテリー状態..... 39

M

- MAIN (メイン) スイッチ..... 14

N

- Num Lock
(ニューメリカルロック) キー..... 25
- Num Lock
(ニューメリカルロック) 表示..... 20

P

- Page Down (ページダウン) キー..... 27
- Page Up (ページアップ) キー..... 26
- PC (ピーシー) カード..... 50
 - ーアクセス表示..... 20
 - ースロット..... 14
 - ー取り出しボタン..... 14
 - ーをセットする..... 51
 - ーを使うときの注意..... 50
 - ーを取り出す..... 52
- PHS (ピーエイチエス)..... 59
 - ー接続用 USB ケーブル..... 60
 - ーを接続する..... 59
- PIAFS (ピアフ)..... 60
- PMSets98..... 119
- POST (ポスト)..... 86

Print Screen (プリントスクリーン) キー	25
S	
Scroll Lock (スクロールロック) 表示	21
SCSI (スカジー) カード	50
Shift (シフト) キー	26
SUS/RES (サスレス) スイッチ	11
SUS/RES (サスレス) 表示	20
S 映像出力端子	15
T	
True Color	45, 77
U	
USB (ユーエスピー) コネクタ	15
USB マウス	64
W	
Windows (ウィンドウズ) キー	27
WinDVD	126
あ	
インテル® プロセッサ・ シリアル・ナンバー	124
液晶ディスプレイ	10
-の明るさ	43
エラーメッセージ	109
お手入れ	114
音量の設定	122
音量ボリューム	12
か	
カーソルキー	26
解像度	44, 76
-を変更する	45
外部ディスプレイコネクタ	15
外部ディスプレイの走査周波数	121
外部ディスプレイを接続する	69
拡張 RAM (ラム) モジュール	54
-スロット	17
拡張キーボード/マウスコネクタ	15
各部の名称と働き	10
カバークローズスイッチ	11
管理者用パスワード	104

キーボード	11, 25
起動時の自己診断テスト	86
起動メニュー	102
休止状態	28, 33
クリック	23
携帯電話	59
-接続用 USB ケーブル	60
-を接続する	59

さ

作業を再開する (レジューム)	31, 35
充電する	36
周辺機器	48
終了メニュー	103
詳細メニュー	95
省電力の設定	116
省電カメニュー	100
情報メニュー	103
シリアルコネクタ	16
スクロール	23
スタンバイ	28, 29
スタンバイ/休止状態	28
スピーカー	11
正常時のメッセージ	108
セキュリティメニュー	98
走査周波数	121

た

ダブルクリック	23
ディスプレイの表示を切り替える	73
デジタルビデオカメラを接続する	82
テレビを接続する	69
テンキーボードの接続	65
テンキーモード	27
電源オプション	116
盗難防止用ロック	15
ドラッグ	23

な

内蔵バッテリーパック	14, 41
------------	--------

は

ハードウェアのお手入れ	114
ハードディスクアクセス表示	20
廃棄	115
パスワード	104
-を削除する	106

ーを設定する	104
ーを変更する	106
パソコン本体のお手入れ	114
発色数	44, 76
ーを変更する	45
バッテリー	36
ー残量表示	20
ー充電表示	20
ー装着表示	20
ーで使う	37
ーの異常表示	38
ーの残量表示	38
ーの注意	40
パラレルコネクタ	15
半角／全角キー	26
光デジタルオーディオ出力端子	13
ファンクションキー	25
フラットポイント	11, 22
プリンタを接続する	66
プリンタを使うときの注意	68
フロッピーディスクアクセス表示	20
フロッピーディスクドライブ	13
ーのお手入れ	114
ヘッドホン・ジャック	12
ポイント	23

ま

マイクイン・ジャック	13
マウスの接続	63
メインメニュー	94
メッセージ一覧	107
メッセージが表示されたときは	107
メモリ	54
モジュラーコネクタ	16
モデム	4

や

ユーザー用パスワード	104
------------	-----

ら

ラインイン・ジャック	13
ラッチ	10
レジューム	31, 35

わ

ワンタッチボタン	11, 18
----------	--------

FMV-BIBLO NE4/600N, NE4/50N, NE4/50R

ハードウェアガイド

B5FH-0821-01-00

発行日 2000年6月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

